



Title	中島九郎1945年日記（下）
Author(s)	越山，澄子；山本，美穂子；井上，高聡
Description	越山澄子（翻刻）・山本美穂子（補筆）・井上高聡（解題） 資料翻刻
Citation	北海道大学大学文書館年報，3，108-163
Issue Date	2008-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/32519
Type	other
File Information	koshiyama2.pdf



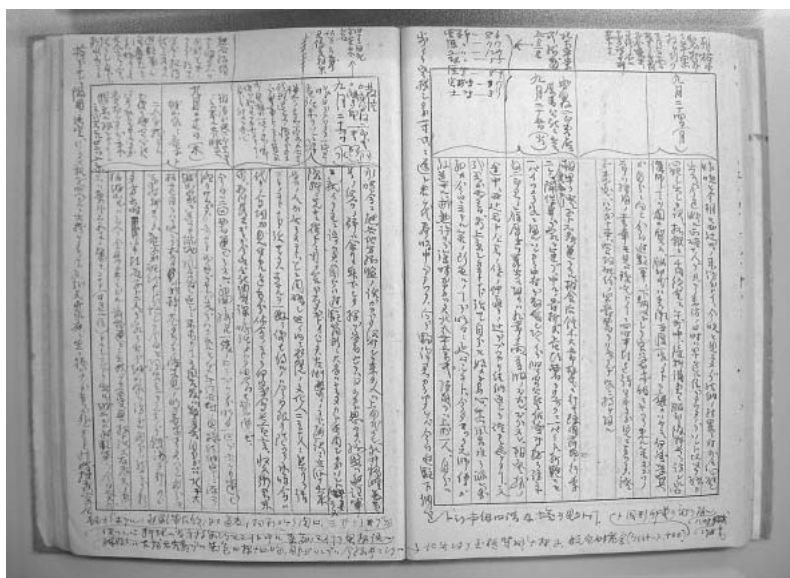
< 資料翻刻 >

中島九郎1945年日記 (下)

〔翻刻〕 越 山 澄 子

〔補筆〕 山 本 美穂子

〔解題〕 井 上 高 聡



〔凡例〕

- 1、適宜、句読点を付した。
- 2、漢字の旧字・異体字は、基本的に常用の新字に改めた。
- 3、合字は、すべて常用の片仮名に改めた。
- 4、難読字には、読み仮名を振った (例：^{ぐらむ}瓦)。
- 5、明らかな脱字は、[] に入れて補った (例：出掛ケ [タ] ノデ)。
- 6、文意の通じにくい誤字には、正字を [] に入れて誤字の上に記した (例：^{〔斬〕}剪 茶)。
- 7、解読不能な文字は、字数分を□で表記し、推測可能な場合は [] に入れて□の上に記した (例：俸 ^{〔絵か〕}□)。
- 8、空欄は、字数分を□で表記し、その旨を [] に入れて□の上に記した (例：森川 ^{〔二字空欄〕}□□)。
- 9、関係者のプライバシーに関わる部分は削除し、該当部分に〔略〕と記した。
- 10、脚注を作成した。

七月一日（日）

快晴

発信　○大原一郎¹⁾氏（(ハ) 種薯礼状）

○笠島彊一²⁾氏（テ）

昨タカラ今朝ニカケ薯ノ培土ヲナス。其外、茄、トマト、サ、ゲナドニモ土ヲカケル。朝、南ノ畠デ鋤ヲ把ッテキタコロニ自分ニ声カケル人ガアル。誰カト見レバ根室ノ柳田鉄三氏デ、令嬢ノタメニ女子医専³⁾ニ行ク所トノコト。昼前ニ一次来訪、農業会本部ノ出納係リニ処望サレタトノコト。一次ニ先日依頼ノ除虫菊粉末ヲ持参。夕方、久振りニ生籬ノオンコニ水ヲ呉レル。完全ニ枯レタモノガ何十本ニ殖エタ。ソノ外ニモ大分弱ッタモノガ見エル。コンナ不成績ニナラウトハ予想外デアッタ。夕食ニハ自分ノ念願ガ叶ッテ汁粉（ソバ粉ト mm⁴⁾ヲ混ジタモノ）ガ出タ。中々甘味ガ強い。

七月二日（月）

七月三日（火）

発信　○拓銀東京支店（(ハ) 転居再通知）

七月四日（水）

午前中、橋本製粉所ニ寄ッたら七、八両月ハ休（端境期）ミトノコトニガッカリ。併シ少シデモヨイカラト頼ンデ置イタ。

七月五日（木）

終日在宅シテ農史ノ原稿ヲ作ル。Gras⁵⁾ノ農業史ノ一節ヲ訳ス。朝、益子⁶⁾、衣料ヲ厚別ニ疎開ノタメ持ち行ク。

七月六日（金）

拓銀ニ調査部長藤村忠⁷⁾氏ヲ訪ネ清水健二郎⁸⁾君ノ就職方依頼、履歴書ト戸籍謄本各一通ヲ渡ス。席ハアリサウダ。ソレカラ途順ト思フテ北大通西十丁目ノ全君ノ令弟宅ヲ訪ネたら既に転居トノコトニ、ソコノ奥様ニ連レラレテ転居先ニ行ク。丁度荷物ノ整理中デアッタ。玄関ニ腰カケテ色々話ス。室蘭、小樽、函館以外ノ支店ナラドノ支店デモヨイトイフ。千葉名産ノ落花生や、ソレニ九重類似ノ飲物ガ出ル。奥様ガブドウ糖ノ一包ヲ持ち来り自分ニ与ヘル。ソノ上、身欠鯨ヲトイッテキタガ、ソレハソノ場デハ辞退シタ。午后三時カラ農林専門部ノ最后ノ委員会本部ニ開催出席。間モナク済ンダ。人事（浜田⁹⁾君教授採用）ヤ徴用ノコトナド。

七月七日（土）

拓銀ニ行キ藤村調査部長宛ノ手紙ヲ本人ニ手渡し方頼ム。又、池原¹⁰⁾君ニ面会、清水君ノコト依頼ス

昨日、拓銀デ通帳ヲ出シ百円引出スコトニシテ置イたら、全ク忘レテ仕舞ッタノデ今日受取ッタ。夕方近ク山田勝美¹¹⁾君来遊。一昨晚トカ東京方面カラ帰町。ビール、ソバ団子ニ楓シラップナド。

七月八日（日）

発信 ○永田昌綽¹²⁾氏 ((テ) 清水君ノコト)

○清水健二郎氏 ((テ))

七月九日 (月)

七月十日 (火)

午後、学校カラノ帰途、清水健二郎君宅 (南四西十二) ヲ訪ネ、明后日、拓銀ニ藤村調査部長ヲ訪ネ、ソレカラ全氏ノ紹介デ阿部人事部長ヲ訪ネル様ニ奥様ニイヒ置ク。清水君ハ子供ヲ連レー一寸外出中。

七月十一日 (水)

今日ヨリ主要食糧一割減トナル。其以前、石黒¹³⁾農商大臣カララジオデ其話ガアッタガ、流石ニ沈ンダ話振りデアッタ。

水曜会デハ今日ヨリ新親睦委員長永井¹⁴⁾君ガ登場。朝日支局長井上震治郎氏ノ南方談アリ。泰、ビルマ等ノ対日感情悪化ノコトナド。一時半カラ銓衡委員会。数日前ノ全会デ石塚¹⁵⁾・田町¹⁶⁾両助教授中ヨリ教授推薦ノ件ニツキ今一度学部長ニ当ッテ貰フコトニシタノデ、ソノ結果ノ報告デアル。結局、自分等ノ主張ノ通り石塚君ヲ教授ニ、田町君ヲ専門部教授トシ、且ツ後者ニ対シテハ従来通り研究実験ヲ可能ナラシメル様便宜ヲ与フルコトデケリガ附イタトノコト。盛岡高農校長岡村¹⁷⁾君来室。全校全窓会ノ内ガ党派ニ分レテ困ルトノコト。昼近キ頃、渡辺¹⁸⁾君火事場視察ノ帰途立寄ラル。岡川栄蔵¹⁹⁾君ノ学論ノ話ヲシ、結局全君ガ引受ケルコトニ内諾。ソレカラ家庭農園ヲ見テ貰フ。ソシテ beet ヲ間抜イテ貰フ。

七月十二日 (木)

一時半カラ教授会。高倉²⁰⁾、小林²¹⁾両君ノ学論審査報告ヲ自分ガナスコトニナツテキルノニ、少シ前ニヤット上原²²⁾君ガ審査要旨ヲ持ち来リ、主トシテ高倉君ノ論文ノコトラ話し合フ。外国書ヲ十分消化シ居ルヤ疑シイナドト上原君イフ。高倉君ノ報告ヲ先キニヤル。丁度一時間カ Катタノニハ多クノ人々ハウンザリシタラシ。伊藤²³⁾学部長ハ居眠リシテ居ルノハ報告者トシテ張合拔ダ。小林君ノ論文ハ世分デ済ンダ。帰室后直チニ高倉君ノ室ニ入り知ラセル。ソレカラ小林君宅ヲ訪ネテ知ラセル。自分モ之レデ大安心。経済教室デハ上原、渡辺、松田²⁴⁾三君ト今日ノ二君都合五人、ソレニ今田²⁵⁾君ヲ入レ計六人ハ自分ノ手ニ掛ッタ訳ダ。

七月十三日 (金)

発信 ○高山保二²⁶⁾氏 ((テ) 速達、謄本三通入)

朝、馬鈴薯ノ培土 (コレデ二度目) ヲヤル。松竹座附近カラ東ノ方、電車線路ノ疎開跡ノ荒寥タル様ヲ見、感無量。又、狸小路ノ人通りモ少イ。

七月十四日 (土)

敵艦上機来襲

発信 ○岡川栄蔵氏 ((テ))

朝、敵艦上機札幌地区来襲。壕二度々入ル。

七月十五日（日）

艦載機来襲。昨今両日ノ来襲デ根室、釧路、室蘭、江別、石狩、帯広、函館、小樽、札幌ナドヤラレタ。後デ聞ケバ、根室ナドハヒドクヤラレタ由

七月二十一日（土）

緊急工事出動

緊急工事出動ノタメ朝六時十分迄ニ円山グラウンド集合トノコトニ、自分ハ田口、内田両氏ト共ニ五時ニ家ヲ出デ、六時十五分前ニ綜合グラウンドニ着イテ見タガ、ソコニモ現場ニモ人影ガ見えヌ。又モヤ失敗カト心配シ、念ノタメ坂下グラウンドニ降りテ見タラ、ソコデ集合儀式最中。駈ケ付テ三人ノ追加ヲ頼ンダ。他ノ兩人ハ綜合グラウンドノ方ニ待ッテキタ。今日ノ工事ハトロ押シト、トロカラ下シタ碎石ヲ傾斜ノ下ニ崩シ落ツ仕事。自分ハ主トシテ後者ヲ婦人連ト共ニヤッタ。昼休中ニ前方ノ民家ニ庭樹ノアルノヲツマラヌコトト眺メ入ッタ。山ノ中ノ民家ノクセニ。今日ノ勤報隊長ハ山北連会公区長伊藤丑之助氏デ、作業隊長代理某大尉ノ挨拶モアッタ。両者ノ挨拶何レモ簡単デ良カッタ。夕方七時ノ列車デ三年ノ尹玉文²⁷⁾ 君帰満²⁸⁾ ノタメ出発トノ通知ガアッタ。

七月二十三日（月）

午后迄ニ小林君ノ学論審査要旨清書完了。コレデ高倉、小林両君ノ分全部出来上リ、気が晴タスル。午後一寸昇校。以上清書（二通宛）ヲ上原君ヘ廻ス。ソレカラ月寒天ニ行キ、大根ト味噌ヲ求メ帰ル。味噌ハ全ク特別取計ヒダ。池田善長²⁹⁾ 君ト退校ノ際、魔ノ踏切辺デブツカル。一昨日転居（豊平カラ南十二西十三）シタト。戸部種物店カラ高価ナ菜豆類ヲ買ッタ。三種取交ゼ1升4勺デ8円73。

七月二十四日（火）

山田富子³⁰⁾ 様、肺炎デ悪イノデ、益子、夕方カラ全家ニ宿リニ行ク。高熱デ心臓弱リ、安眠出来ヌトハ心配

朝、^[様か] □ 側先ノ堆肥ノ場所ニ粗末ナ板囲ヒラスル。一寸堆肥ヲカキ交ゼタラ発煙スル。不快ナラヌ臭ガスル。昨今両日共近所ノ路傍カラクローバー（白）ヲ刈リ堆肥ノ材料ニスル。大学カラノ帰り高女通り停留所ノ処デ宮部³¹⁾ 先生ガ東方カラヤッテ来ラレルノニ逢ヒ、コチラカラ一郎³²⁾ 様ノ御家族ガ御一緒ニナラレテ…トイヒ、終ラヌ内ニ先生ガ引取ッテ、実ハ津軽海峡ノ遭難ニブツカッタカト心配デ、今、札鉄ノ某部長ニ尋ネテ来タガ乗客名簿ガナイノデ不明トノ答デアッタト不安ゲニ老先生ガ話サレタ。昌彦³³⁾ 君来室。今度全宅デハ母上ト奥様トヲ札幌ノ佐藤農場事務所ニ疎開サセ、自分ハ居宅ヲ海軍ニ貸シ、ソコニ同居ノ形トシテ残ルコトニナッタトノコト。又、学位論文ノコトヲ自分カラ切り出シタ。例ノ山林資材問題カト思ッタラ、宗教思想史ニ問題ヲ変ヘタトノ答ニ自分ハ不意ヲ打タレタ。ソシテ全問題ハ年内ニ完成ノ積リダガ、小林教授ニ提出スル積リトノコト。自分ハソノ問題ナラ植民学ノ範囲デナイカ、資材問題ニシタラト勸メタガ、全君ハ学問ニハ区別ガナイ筈、論文ガ教授会デ否決ヲタトヒサレテモ構ハヌト、中々荒イ鼻息。全君ノ旧邸ノ宅地並ニ場合ニヨレバ居住モ疎開ニカ、ルラシトノコト。昨二十三日ニ高倉、小林両氏学論

審査要旨(清書)四通ヲ上原教授ニ廻ス様ニト米田様ニ渡シタガ、ソノ日、同教授ハ午后外出先カラ帰ラナク、結局、本日ソレヲ届ケタトノコト。

七月二十五日(水)

市長候補上原六郎³⁴⁾氏、市会ニ於テ推薦可決確定。上原氏ハ現在、東京都商工経済会理事業務局長デアル

審査要旨、上原君ヨリ帰ル

発信 ○ハツ子³⁵⁾ヨリ高山転職ノ件ニ付速達来ル

午前十時過ぎ、警戒警報ガ出タ。B29一機、函館、室蘭方面ニ来タ。十一時八分前ニ、警報解除。ヤット際ドイ所デ水曜会ハ開会サレタ。十一時迄警報未解除ノ時ハ流会ノ定メダ。全会デハ山一証券ノ水上氏ノお話。昨今兩日、隣リノ田口様カラ壕ヲ堀ッテ出タ黒土ヲ貰ッテ自家ノ壕ノ囲リニ盛ッタ。本日ノ緊急市会ニ於テ、吉田豊吉³⁶⁾議員ヨリ市長候補上原六郎氏(第二候補ト。第一ハ留岡³⁷⁾、第三ハ三宅氏)ニ対スル交渉委員(三人)ノ苦勞ヲ擣ヒ、且ツ推薦賛成催促ヲナシ、次ギニ小谷³⁸⁾議員カラ無投票推薦ヲ持出シ、村田³⁹⁾議長賛否を皆ニ問ヒ、議員起立。

七月二十六日(木)

俸給三ヶ月分(今回初メテノコト)配付サル

今日デアッタ後カラ思フガ、高倉、小林兩君学論審査要旨ヲ農学部事務所ニ差出ス。午后、樺太ノ高山ノ転職ノ件ニ付、島⁴⁰⁾教授訪問。農林専門部ニ口ナキカラ尋ネタラ、明春、畜産カラ採ルコトニナツテキルガ、ソレハ予算経理ノ関係上、今后ハ高級ノ人ハ採用困難トノコト。三沢⁴¹⁾前市長ノ国民義勇隊首脳部及旧翼賛会支部常務委員招待会ガ、午后五時、東宝劇場前衆衆デ催サル。自分モ出席。席上、三沢氏カラ会衆ニ作詩其他配布。関堂⁴²⁾君ト初対面挨拶。工学部武田⁴³⁾教授、堀尾氏(百留屋主人)等ト話ス。

七月二十七日(金)

午后、高山ノ件ニ付、井口⁴⁴⁾教授ヲ訪ネル。長話ヲスル。結局、心当リハナイ、最近、畜産ノ職場ハ急ニ不景氣ニナツテ来タ。樺太ノ獣医部口ガアリトスレバ其ノ方ニ一時行ク方ガ宜シカラントノコト。深夜十時半、警戒警報発令。約二時間ノ後解除。

七月二十八日(土)

松田氏来訪。池田善長君ノ話ガ出タ。全君ノ移転先ヲ訪ネルトイッテキラレタ

「米・英・重慶対日共同宣言帝国政府黙殺」トイフ新聞記事ガ今日出ル。随分機密ナ記事ト思ッタ。高倉君ノ学論訂正済ノモノ、本人ヨリ持チ来ル。又、小林君ノ学論ノ訂正シタモノ(序文、秩父宮殿下ニ関スル箇所大部分削除)、一旦自分ノ手ニ戻ッテ来タガ、例ノ Aus des lois ト Moten ガ直ッテキナイノデ、又モヤ自分ガ全君ノ室ニ持チ行キ訂正ヲ要求。夕方近く、教室ノ松田君来訪。澄子⁴⁵⁾、コーンフレーク(少量砂糖入)ヲ出ス。益子ハ朝カラ又モヤ山田家ニ行ク。今晚、先方ニ宿ル。別段悪イ訳デハナイ様ダ。松田氏ハ学位教授会通過ノ札ノタメニヤッテ来ラレタノダガ、バター半封度ト一封ヲ持参。

七月二十九日(日)

茲三、四日間快晴、炎暑続ク

発信 ○ハツ子 ((テ))

自宅塵箱ヲ他ニ移シ、其跡ヲ耕ス。軟カデ立派ナ大根適地トナルダラウ。朝、益子、琴似カラ帰宅。昨晚モ一昨晚モ警戒出デ準備スル。

七月三十日（月）

三沢前市長慰安会

夏服ニ着替ヘル

朝、石黒農商大臣ノ「学徒開墾動員ノ意義」ト題スル一時間ニ亘ルラジオ講演ガアル。「国民皆農」トイフ言葉ガ出ヅ。大臣ノ邸宅モ戦災ニ罹ッタ由。林善茂⁴⁶⁾ 君来室。大分以前ヨリハ元氣ニナッタ様ダ。[中略] 帰宅シテ見タラ同君ガ野菜ヲ土産ニ持ッテ来テキタ。全君ニ教室デ自分ヨリ全君ノ就職希望先ヲ尋ネタトコロ、自分ノ研究ヲ続行スルコトト自分ノ研究ガ国家ノタメニナル様勉メ度イト答ヘタ。教室助手ノコトモ内密ニ話シタ。午後五時カラ例ノ衆楽デ吾々が三沢前市長ノ退職慰労宴ヲ催ウシタ。来賓ノ外十六、七人出席。岡田大佐（国民義勇隊市副隊長）ガ先ヅ挨拶ヲ述。終リニ近ク武田教授（工学部）ガ幻灯デ飛行機ヲ説明。随分達弁通曉振リニ驚ク。最后ニ宇野幕僚長ガ三沢前市長万歳ノ一唱ノ音頭取りヲヤッタ。其前ニ自分ハ「戦争と食糧」ヲ一同ニ配布（但シ十三冊ヨリ持参シナカッタノデ二人分不足）コノ席上、三沢氏ニ推薦中ノ新任市長上原氏ノコトヲ尋ネタラ、道庁ノ給仕デアッタト事モナゲニ答ヘタ。三沢氏ノ引越先キノ住所ハ未定トノコト。一寸氣ノ毒ノ氣ガスル。

七月三十一日（火）

快晴

山田老人、荷物用防空壕作業ノタメ来ル

宿直

今朝、初メテ開襟シャツヲ着ル。帰宅ノ途中、自宅ノビートノ葉ガ萎レテキルノヲ見テ心配。夜九時頃、農学部ノ宿直員三上氏カラ電話。今晚ハ教授ノ順番トシテ自分ノ宿直ニ当ッテキルノニ如何サレタカトノコトニ自分ノ当番トハ露不知ビツクリ。ソノ中ニ、十一時前ニ警報ガ鳴ッタノデ急ギ仕度シテ学部ニ駆ケ付ケル。月ガ漸ク出テ来タノデ割合歩キ易イ。十二時頃著ク。（五十分カ、ッタ）間モナク解除。自室ニ帰り眠ル。七時少シ過ギ帰宅ノ途ニ就ク。

八月一日（水）

朝、宿直ヨリ帰ル

水曜会デ黒澤⁴⁷⁾ 代議士ノ戦災帰農者ノ話ガアル。紹介シタ人ハ西本放送局長トノコト。大都市ノ破壊ハ止ムヲ得ヌトシテ中小都市マデノ破壊ハ困ッタモノダ。北海道ノ諸都市ノ疎開既ニ防衛ハ緊急ヲ急スル^{〔要〕}ノデ今モ熊谷⁴⁸⁾ 長官（総監）ト話合ッテ来タ所ダナドノ大気焰。午后ノ農政講義ニハ一人ノ学生モ見エヌ。翌日聞ケバ家庭防空壕準備ノ為メダッタトノコト。経済二年竹中孝ノ入営令状ノコトデ親戚ニ当ル秋山康之進⁴⁹⁾ 氏令室（多分）

ヨリ電話来ル。[中略] 公報デナクバ受付ケストノコトデ農学部事務所ニ自分ヨリ打電方（熱海市）依頼シタラ、夕方、自宅ニ当テ、小山内⁵⁰⁾ 君カラ入営ノ意味ノ打電ハ出来ヌ故、公用直グ帰レトノ電報ヨリ致方ナシトノコト。ソレデモヨシト頼ンダ。安孫子⁵¹⁾ 氏ニ水曜会デ会ッタラ池田君ノ話ガ出タ。発令前デモ早速ニ出勤シテ貰ヒ調査研究ヲヤツテ貰ヒタイ口振りデアッタノデ、学校帰リニ池田君ノ宅（ルーテル教会向）ニ立寄ル。宅前ニ防空壕掘鑿中。令室ガ先キニ出テ来タガ、病人ラシクモ見エナンド。ソレカラ背中合セノ駒沢⁵²⁾ 君宅ニ立寄り防空見当ノ辞令ヲ渡ス。

八月二日（木）

夕方近く、小林教授ノ学論（二冊）事務所ニ廻ス

元市翼賛会常務委員 伊川⁵³⁾ 氏ヨリ「戦争と食糧」ニ対スル礼状（手紙）ガ来ル一時カラ教室図書疎開ノ件デ相談スル。三ヶ所位ニ分散疎開シヨウトイウコトニシタ（簾舞、富良野、天塩）。経費ハナルベク多額ニ見積様ニト高倉君ニ奔走ヲ頼ンダ。小林君ガ学論ノ訂正済ノモノ（二冊）自室ニ持参スル。ソレカラ上原君ノ来室ヲ待テ訂正ノヶ所ヲ見エ、最后ニソレヲ事務所ニ持ち行キ小山内君ニ渡ス。コレデ高倉、小林両君ノ分ガ済ミ大安心ダ。一次⁵⁴⁾ ニト農業会石狩支部ニ電話シタガ不通ノ為メ、本部会計ニ電話シタラ年輩ノブッキラ棒ナ男ガ出テ来タ。自分ノ質問（河西君ハ未ダ本部ニ帰ッテ来ヌカトノ）ニ対シ、へ、ソナナコトハ知ラストイッタ風ナ返事ニ自分モ一寸ドキマギ。名前ヲ尋ネラレタガ答ヘズニソノマ、電話ヲ切ッタ。

八月三日（金）

八十七度

小林教授ノ副論文ヲ事務所ニ廻ス

伊藤学部長ヲ部長室ニ訪ネ高倉・小林両君ノ学論整備ノモノ事務所ヘ提出シタコトヲ報告。教室図書疎開ニ関シ御座所ノコトヲ話シ出シタガ頭カラ反対。岡村⁵⁵⁾ 会計課長ノ態度ニ不満ノ様子。且ツ直接本部ニ交渉スルノハ快クナイトイフ様ナ話振りデアッタ。経済ノ要求経費二万円トイヒ出シタラ学部長ハアザケリ笑ヒナガラ経済ハ偉イナドト出ル。学部長トシテハ少々軽率ノソシリハ免レマイ

午后、市役所水道課ヲ訪ネ水道新設ヲ頼ミ込ム。疎開跡地ニ残存ノ不凍水管ニ気ガツイタノデ出掛ケタモノダ。係ノ人ハ割合親切デアルガ、不凍管ハ道庁ノ支配ニ一旦ナッタ上、市役所ニ下ゲ渡サレル筈ダガ、ガソリンヤハンダ欠乏ノタメ戦争ガ終ラネバ駄目トノ話ダッタ。併シ教授肩書ノ名刺ヲ出シタラ係長ニ話シ置カウトノコトデアッタ。自分ノ申込ハ三年前ト思フガ、係員ノ口振りデハ三年トイフノハ古イ方ラシク、ソレヨリ新ラシイモノモ布設ニナッタモノモアルラシイ。夕方、高山立雄⁵⁶⁾ 君来遊。ヤツレテキル。腹ガ減ッテ仕事ガ十分出来ヌト滯ス。東京ノ電信局カラ電報デコチラカラ余リ電報ヲヨコシテ呉レルナ、空腹デ堪ラヌカラカッテ来タトノコト。驚クベキコトダ。ビール二本二人デ飲ム。全君、今晚ハ何時モヨリ一層ハシャグ。瘦セテ来ルトトモ子⁵⁷⁾ チャンニソックリノ顔ノ部分ガ出テ来タ。

八月四日（土）

午前十一時過、自宅茶間ノ寒暖計八十九度デアッタト

昼頃、吉田豊吉氏店ヲ訪ネル。例ノ姉嬢ハ居ラズ。弟ガ出テ来タ。念ノタメ味噌ノコトヲ口切ッタラ明後日少シ出スカラ来ル様ニトノコト。嬉シ。全君ノ親父ニ上ゲル様ニト「戦争と食糧」壱部渡ス。ソレカラ静子⁵⁸⁾ 宅ニー寸立寄ル。近頃余リ外出セヌ（空襲ノ危険ノタメ）トノコト。道理デ富子モ色白ニナッタ。江別ノ成田家母上等過日ノ空襲デ生キタ心地ハシナカッタトノコト。其後、火力発電所附近ニ転居シタトノコト。高倉君ニ先日借用ノ十一冊ノ図書ヲ返ス。農学科カラ大根ノ払下アリ。午后早く帰宅シタラ成田ノ叔母様来宅シテ居ラレタ。瘦セテスタイ [ル] ガ良クナリ別嬪ニナラレタ。男爵薯二本、本年初テ掘ル。牛島満⁵⁹⁾ 中将ガ大将ニ陞進ノ旨発表。昼食事中、池田善長君来室。本月二日カラ戦時農業団ニ出勤シテキル由。

八月六日（月）

原子爆弾投下

広島市新型（原子）爆弾ヲ受ケ大被害

ろーま法皇、コノ暴挙ニ対シ憤慨

見出ノ爆弾ニヨリ広島市ハ其後、聞ク所ニヨレバ死傷十万、死者四万トイフ。陸軍中佐李鍋公殿下ニモコレニヨリ戦傷死ヲ遂ゲラル。又、全市長栗屋仙吉氏、其他中国総監府官房主事、広島通信局長（外ニ全県内政部長モ十三日迄消息不明）等何レモ戦災死。其後又モヤ米敵ハ同種爆弾ヲ長崎市ニモ使用。我国ヨリスイスヲ通シ米国ニ抗議提出。

八月八日（水）

午前十一時過ニ、警戒警報発令。水曜会中止。午后ノ農政講義（四、五時間）ハ油ガ乗ッテ来テ三時四十分頃迄モ続ケ様ニヤッタ。午前九時カラ工学部脇広場デ大詔奉読式挙行。中野⁶⁰⁾ 事務局長東京出張中ノタメ岡村会計課長代ッテ開式終式ノ辞ヲ述ブ。

八月九日（木）

ソ連ト戦争状態ニ入ル

警報発令（終日、解除ト発令ト幾度モ）。米ハ去ル六日、新型爆弾ヲ以テ広島市攻撃。相当ノ被害ヲ受ク。ソノ際、陸軍中佐李鍋公殿下負傷後戦死。

八月十日（金）

過去一週間位炎暑続イタノニ今日ハ涼シイ

警報終日発令シタマヽ、夕方ニ至リ漸ク解除。荷物用防空壕ニヶ所ノ周囲ノ手入今日デ全ク終ル。夕方急ニ冷氣ヲ催ウス。昨日迄ハ相当暑カッタノニ。三国宣言拒否ヲ理由ニ戦争状態ニ入ル旨宣言、モロトフ⁶¹⁾、佐藤⁶²⁾ 大使ニ通告。ソ連外務人民委員モロトフハ八日夜、佐藤大使ヲ招致、ソ連ハ明九日カラ日本ト戦争状態ニ入ル旨通告シタ。九日、ソ連軍ハ東部、西部満ソ国境ヲ越エ攻撃。日満軍自衛上交戦、琿春、虎頭、満洲里、三河デ越境。満鮮各地ニ空襲。又、樺太武意加附近ニ侵入、半田西側地区ニモ砲撃。

八月十一日（土）

緊急工事出動

発信 ○大村健太郎⁶³⁾氏 ((ハ) 祝儀五十円)

緊急工事出動。午前六時、円山坂下グラウンド集合ニ付四時起床。五時、内田氏ヲ誘ヒソレヨリ進藤氏、妻君ヲ誘ッタガ食事中トノコトニ吾等兩人出掛ケル。円山墓地ノ所デ一人ノ若い女ガ吾等ノ前ヲ切ッテ歩イタノガー一寸ノ違ヒデ先頭、次ガ自分等。ソレト殆ンド全時ニグラウンド東方カラ三、四人ノ輩ガ入り来ル。点呼ノ際、出動総員百十五名トカアッタ。自分等ノ山北第三小隊ハ隊長共十四人(多分、解散ノ時ハ十五人中女子四人、又、男子中ニハ未青年二人)。前回通りズリ運び。隊長ハ本年六月東京カラ来札(故中実氏宅寄寓)ノ青年。一寸明快ナ男。グラウンドニ着クト間モナク警戒報^[警]報鳴ル。今日ハソレ丈ケデアッタト。昼ノ休ミニ動力所脇ノ小川ノホテリニ腰掛ク。コノ辺は佐藤三吉神社神主ノ別荘ダト進藤氏奥様ニ後カラ聞ク。閑静デ冷シク気持佳カッタ。改桑、赤白クロバー、ヒバ、女郎花ナド目ニツク。畜産ノ松本⁶⁴⁾ 助教授モ円山組トシテ出動。妊産婦、病者、老人、国民学校児童(初等科)、幼乳児強制疎開ヲ皆デ嘆ク。ソレナラ防空壕ヲ作ル必要ガナカッタ。死ナバ家族諸共ニト思ッタノニト。

八月十二日(日)

午後、中村床屋ニ散髪ニ行ク。[中略] 今日ハ粗末ト見エテヒゲソリ跡ガ少シザラへ。裏ノ内田君、昨日ノ工事デ腰ヲ痛メ、今日ハ臥床シタ由。静子、昼前ヨリ来宅。帝織⁶⁵⁾ 社宅疎開ノ件ヲ話ス。今暫ラク形勢観望ニ決メタトノコト。

八月十三日(月)

市役所ノ湊氏ニ水道ノコト頼ム

夕方、自宅ヨリ農学部事務所ニ電話カケ、宿直ノ島教授ト樺太高山ノ件ニツキ話ヲスル。近キ内ニ樺太正見⁶⁶⁾ 氏ニ返書出ス様ニイッテキタ。退学ノ途中、四丁目ノ停留所デ市役所ノ湊氏ニ逢ヒ水道ノコトヲ頼ンデ置イタ。

八月十四日(火)

発信 ○高山保二氏 ((テ) 速達)

ソ連軍、樺太安別、恵須取ニ上陸開始。安別ニハ十二日、恵須取ニハ十三日北大義勇戦闘隊予行演習。午后二時半ヨリ寮前デ挙行(農学部丈ケハ午後一時半集合トナッテキタノデ、吾々ノ集り方ハ早過ギタ)。集合ヨリ教室ニ帰り、ソレカラ間モナク帰宅シヨウト学部前ニ出タトコロニ田沢⁶⁷⁾ 君ニブツカル。札幌气象台転任后初メテ面会。何度モ先方デハ自分ヲ部屋ニ訪ネタガ不在ダッタトノコト。ヒゲニ白イノガ見エ急ニフケ出シタ様ダ。

八月十五日(水)

戦争終結ニ関シ大詔煥発アラセラル(昨十四日付)

新聞ハ故ニ午后遅ク配達

昨夜阿南⁶⁸⁾ 陸相自刃(於官邸)

本日午後、鈴木⁶⁹⁾ 内閣総辞職

自分ハ午後一時半カラ二時間続キノ農政ノ講義ヲヤル

午前中、経済教室カラ自宅ニ電話デ本日正午 陛下ノラジオ御放送ガアラセラルトノ知ラセガアッタノデ歩いて自分ハ学校ニ出掛ケル。定刻少シ前カラ農学部事務所前ノ車寄セノ所ニ職員（プロパー、経済ナド）集合。自分ハ伊藤学部長ノ次ニ起ツ。定刻来ルヤ長尾⁷⁰教授ノ発声デ気ヲ付ケノ号令ガカカル。愈々 陛下ノ玉音ニヨリ畏クモ大詔ガ煥発セラレタ。大詔ノ御意味ハ大体吾々ハ予メ推量ハ致シテ居タモノ、「非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ收拾セント欲シ…」と宣セ給フ。玉音ヲカスカニ奉聴スルニ及ビ身体硬直シ暗涙ニ咽バザルヲ得ナカッタ。右ノ伊藤学部長ヤ左ノ島専門部長ナドハンカチヲ取り出シテキタ。又丁度、自分ノ後方ノ沢田⁷¹ 助教授ハ切りニ鼻ヲススツテキタ。洵ニ感無量ノ一瞬デアッタ。嘗テハ三大強国ノ一トシテ世界ニ雄飛シタ我が大日本帝国モコノ瞬間カラシテ今迄ノ姿ノ帝国カラハ遠クニ離レ去ッタコトヲ念ヘバ腸寸断ノ情ニ堪ヘヌ。只一ツ尊厳ナル我が国体ヲ護持シ得タコトハセメテモノ幸セデアル。「宜シク挙国一致子孫相伝ヘ確ク神州ノ不滅ヲ信シ任重クシテ道遠キヲ念ヒ総力ヲ将来ノ建設ニ傾ケ道義ヲ篤クシ志操ヲ鞏クシ誓テ国体ノ精華ヲ発揚シ世界ノ進運ニ後レサラムコトヲ期スヘシ…」トノ御言葉ヲ奉ジテ滅私奉公ヲ誓ヒツ、吾々ハ学業ニ一層今後精進スル覚悟ヲ固メタノデアル。陛下ノ玉音ハラジオノ関係ト思ハレルガ時々不明瞭ノ御箇所ガアッタ。長ク御言葉尻ヲ引カレル所ナド特ニ目立ツ。ラジオ奉聴后、教室ニ帰り食堂ノ窓越シニ陛下ノ芝生ヲ見ルトソコニ農芸化学ノ学生デバモアラウカ三十余名ノ学生ガ残ツテキタガ何レモ首ヲウナ垂レ、中ニハハンカチデ眼縁ヲ拭ツテキルモノモアッタ。ソノ内ニ一時半カラ工学部脇ノ広場デ今⁷² 総長ノ訓示ガアルトイフノデ、学生ノ群モ北ノ方ニ歩ミ去ッタ。自分モ全様ダ。総長ノ訓示ハ至極簡単。聖徳太子ノ承諾必謹ノ熟語ヲ用ヒタ様ダガコレハ至極所ヲ得タ言葉ト思ツタ。澄子モ理学部ノ隊伍中ニ見エテキタ。上原君ハ今日モ亦、遅クヤツテ来タ。挙式ガ始マラウトスル時ニヤツト来タ。解散后、沢田助教授ト途中一緒ニナツタ時、茄子ノコトヲ尋ネタラコノ作物ハ決シテ肥料負ケハシナイカラ今カラデモ薄イ下肥ヲ与ヘテヨイトノコト。前ニ戻ル。玉音奉拝ノ際、多数ノ群衆ヲ眺メタガ、一人トシテ鉄兜ヤ防空ズキンヲ冠ツタ者ハ見当ラヌ。自分一人ダ。併シ、大詔ヲ拝スルソノ瞬間迄ハ国民ハソノ内容ヲ拝承シテキナイモノト見ネバナラヌノニ服装ノ上ニ弛ミヲ見エタノハ国民トシテノ一欠点デハナイカト危ブマレタ。

八月十六日（木）

午前九時半、東久邇⁷³ 宮様ニ組閣大命降下

発信 ○水口彦太郎⁷⁴ 氏（（ハ）豊橋ノ部隊）

朝、予科講堂前ノ部隊ノ前ヲ通ツタガ衛兵所ニ衛兵ガ見エズ、玄関先ニ衛兵ガ見エタ。午前九時半、東久邇大將宮殿下ニ組閣ノ大命降下。宮様ノ内閣組織ハ内閣制度創設以来初メテノコト。全ク意表ニ出タ事柄デアル。自分ハ近衛⁷⁵、南⁷⁶、宇垣⁷⁷ 三氏ノ中カラカト思ツテキタ。朝、一中線⁷⁸ノ停留所カラ乗ツタガ、ソノ際注意シテ見ルト防空ズキンヲ負ツテ歩ク婦人三、四人見当ツタガ、流石、男デハ一人カ二人ニ不過。夕方、隣保車ヲ曳イ

テ東屯田通りノ桶屋ニ至リ二斗桶二本求メル、一本十円。

八月十七日 (金)

組閣成立

軍令部次長大西滝治郎⁷⁹⁾ 海軍中将ハ昨十六日午後三時官邸ニ於テ自刃。今十七日午後三時半ヨリ渋谷ノ次長官邸ニ於テ告別式執行。遺書

発信 ○巖松堂 ((ハ) 四十三回配当金未着問合)

○根岸勉治⁸⁰⁾ 氏 ((テ) 速達)

午前十一時、東久邇宮殿下ニハ参内、閣員名簿ヲ奉呈。午后、親任式挙行。千石⁸¹⁾ 氏、農商相トナル。

グランドホテル西脇ノ空地デ書類消却 (配給ノ文字ガ一寸見ユ)。又、学校ヨリノ帰途、鉄道局作業所ノ構内デモ全様焼イテキタ。夕方、東久邇総理宮殿下ノ施政方針ニ関スル御放送ガアル。テキハキシタ御言葉遣ヒデ頼母敷イ。

予科前ノ部隊ノ衛兵所ガ無クナッテキタ。

八月十八日 (土)

水道新設ニ関シ遠藤氏尽力ヲ約ス

朝、登校ノ途中、高山立雄氏ヲ新住所 (南八西十七) ニ訪ネル。台所デ稼イデキタ女ノ子ガ自分ニ愛憎^{〔想〕}ヨク挨拶シテキタ。立雄君ノイフニハ、最近、樺太カラ毎日三、四千人ノ女子供ノ避難民ガ渡道シツ、アリトノコトニ自分ハ驚イタ。午前十時カラ教授会。終戦ニ関スル緊急事項ニ付テアッタ。午後五時カラホテルデ社交クラブ例会。元ハンブルグ領事出納功⁸²⁾ 氏ノ話ガアッタ。予期ニ反シ面白クナク自分ハコクリへト居眠リヲシタ。帰りニハ遠藤喜四郎氏ト同道。水道新設ノコトヲ話し出シタラ、同氏が井口水道課長ニ近い内ニ話シテ置カウトノコトニ有難ク思ッタ。

八月十九日 (日)

橋本製粉所

兵舎通勤ノ女工員、手ニフロ敷包ヲ皆持ッテキルガ白色タオルヲ皆包ンデキル

朝、橋本製粉所ニ立寄ッテ夏蕎麦ノ粉ヲ尋ネタラ、本年ハ作物ノ関係デ更科ガ出テ来ナカッタノデ、九、十月ニ出ル秋蕎麦ヲ打ツヨリ外ハナイトノコト。例ノ若者ニ五貫目頼ンダ。ソレカラ月寒^ツニ行ッタガ、野菜ハ今日ハ何モナク、今後モ面倒ナ風。ソレヨリモ全店モコノ時局ノ急変ノタメ他ニ移ラネバナルマイトノコトニ自分モ落胆。続キ味噌モ尋ネテ見タガ何レモ駄目。伊藤肉店ニ寄ッタラ、明日カ明后日ニハ桜肉ガ来ル筈ト。五百目頼ンデ置イタ。月寒行ノ途中、街行ク人々ノ間ニゲートルナシノ男子ガボツへ見エテ居ル。帰宅后、防空壕 (避難用) ノ取壊シヲ始メタ。中々ノ暑気ダ。豊平市街ノ上ヲ一飛行機ガ超低空デ飛ブ。一等兵ニ聞ケバ、月寒兵舎ニハ半島人ノ兵許リト。今回ノ停戦ノ報ヲ待テ彼等ハ拍手、ドンチャン騒ヲヤッテキルト。

八月二十日 (月)

今晚カラ灯火管制解カル

南樺太、ソ連軍ニ対シ今二十日停戦状態ニ入ル
八十七度

小林被服工場脇ヲ通ルト最早、工場ニハ職工見エズ。窓ガラス閉ヂタマ、朝カラ昼過マデカカッテ防空壕ノ取毀ヲ完了シタ。日中八十七度デ流汗滝ノ如ク眼鏡ヲ越シテ目ニ入ル。遂ニパナマヲ抜イデ仕事スル。午後四時頃登校。事務所カラノ電話デ二時半カラ教室主任会ガ開カレ居ルトノコトノ急ギ会談ニカケツケル。道庁カラノ依頼デ農学部学生全部ガ土地開発調査ニ出掛ケルコトノ相談。九月二十日迄デアッタ。午前中、静子カラ電話来リ、樺太ノ高山カラ何カ便リハナイカ、樺太カラノ避難来道者継続トノコトダガトノコト。道庁警察部カラ夕方、ラジオニヨリ今晚カラ灯火管制解除ヲ報ジタノデー齊ニ各戸共煌々ト窓ガ明クナル。全ク久振りノコトダ。自分ハ夕涼ミカタへ宅前ノ辻ノ辺ヲ往来シテ近隣ノ家々ノ窓ノ明リヲ眺メテ愉快ニ感ジタ。ソレニ月ガ出デ薄モヤニ包マレタ光景ガ風雅。今日デアッタと思フガ、東久邇首相宮殿下ニハ午後七時、八時、九時、十時、十一時、十二時ノ六回、軍及国民ニ対シ態度ヲ慎重ナラシメル様放送ヲナサレタ。

八月二十一日（火）

連合軍ノ第一次進駐等ニ関シ打合ノタメ陸軍中將河辺虎四郎⁸³⁾ハ帝国代表トシテ去ル十九日、マニラニ出発。二十一日朝帰京
四時間目ノ一年目ノ農史ノ時間ニ land utilization ニ付テ論ジタ。近ク土地利用調査ニ出掛ケルタメ予備知識ニモト思ッタカラダ。昼、経済ノ集リヲ開キ農地調査ニ経済学生出勤ノコトヲ相談。三時半頃、全ク久振りニ風呂屋ニ行ク。矢張り気持ガ良イ。湯銭ガ十二銭ニナッテ居タ。夕方七時カラ千石農林大臣ノ放送ガアル。中々シッカリシタ、ソシテ農民ノ心ニ直チニアピールスル如キ内容ノモノデ、流石政治家ダナト思ッタ。

八月二十二日（水）

天気予報今日ヨリ始マル
自宅ポンプヲ修理シタラ成功
演習林カラ木炭七俵送達ヲ受ク
家庭電灯本日ヨリ自由トナル
ソ連トノ樺太デノ交戦ハ去ル二十日ヲ以テ終ツ [タ] トラジオデ知ル
樺太ヨリノ避難民ノ発生ノ理由ガ判ッタ

今日ハ少シ涼シイ。前二回引続キ休会ノ水曜会ガ開催。西本放送局長ト東⁸⁴⁾道新社長トカラ、二、三日前ノ首相宮殿下ノ数回ニ亘ルラジオ放送ヲ何故ナサツタカニ付キ自己ノ推量談ガアッタ。何レモ海外部隊ニ対スル御考ト推察。社長ノ説明中ニ我軍ノ「降伏」トイフ文字ヲ麗々シク新聞ニ出シテキルノハ、ソレハ政府ノ方針トシテ国民ニ甘イ考（時局ニ対シ）ヲ起サシメヌ様ニトノコトカラ態トサウシタモノダト。二時半カラ教授助教授、会議室ニ招集ヲ受ケ、道内未利用開拓地調査ニ関シ学生職員出勤ニツキ相談。午後ノ農政ノ講義ニ自分ハ昨夕ノ千石大臣ノ放送（新聞所載）ヲ紹介。

八月二十三日（木）

今日ノ日付デ樺太高山宛ハガキヲ書（安否）イタガ当分ハ受付ケナカッタ
発信 ○千石興太郎大臣（（テ）速達）

八月二十四日（金）

比律賓ノ共和国解体、日本擁立中ノラウル⁸⁵⁾大統領ハ八月十七日解体決定、二十三日宣言発表

自由インド仮政府主班チャンドラ・ボース⁸⁶⁾氏、十六日昭南発空路上京中ノ処、十八日台北郊外デ飛行機事故デ重傷ヲ蒙リ十九日逝去。同行中ノインド高級副官某大佐ハ重傷、四出井⁸⁷⁾中將ハ即死、他ノ四将校ハ夫々重軽傷

下村定⁸⁸⁾大將、陸相トナル（昨二十三日親任式）

東京都長官ニ広瀬久忠⁸⁹⁾氏任命

午後、読売新聞記者久戸氏、電話連絡ノ後、来室。終戦后ニ於ケル北海道農業ノ人口包容力ニ関シ意見ヲ尋ネラル。安孫子、黒澤両氏ノ意見モ聞イタ由。ソレニヨレバ本道ニ残サレタル可耕地七十万町歩、ソレニ二十万戸百万人ノ農業者ヲ入レル計画トイフ。自分モ随分吹キマクッタ積リ。別刷四、五冊与ヘタ。故矢島清君ノ話ヲ持ち出シタラ、結婚シタ許リノ所ダトノコト。氣ノ毒ナコトダ。ラジオデ最近、伯林ヨリノ婦朝者、札幌出身清水日出夫氏ノ話ガアッタ。鎌倉在住トアルカラニハ、ソレニ又農商省囑託トアレバ島田⁹⁰⁾氏ノ誤リニ違ヒナイ。

八月二十五日（土）

十時半カラ学生調査団ノコトデ集会開カル、各班長決マル

二時間目ノ農史ノ時間ニ、我ガ国ノ莊園ノトコロデ太政官符中ノ漢文ヲボールドニ書キ上ゲル。ソシテ今後、吾々ハ英独漢文ノ何レニモ熟達スルノ必要ヲ説イタ。午後、月寒ニ行キ先ヅ刃店ノ入口ニハカーテンガカ、ツテキタケレド、万一ニト思ヒ裏口カラ入ッテ野菜ヲ尋ネタガ、最早廃業シタトノコトニ、ソレナラト引下ッタ。ソレカラ伊藤肉店ニ行ッたら、丁度桜肉ヲ売シタバカリデアッタ。五百目求メタガ前回迄ハ百目一円四十銭ノトコロ、今度ハ一躍二円二十銭ニ引上ッタ。

八月二十六日（日）

午前中、一次来宅。ソノ中ニ高山チヤ子⁹¹⁾来リ。樺太避難民ノ海上遭難ノ惨状ヲ口泡ヲフイテ説明スルノデ、ハツ子一行ノ安否ガ心配シ出サレタ。其外、豊原モソ連ニ爆撃サレタト。夕方、大久保方ニ行キ野菜（胡瓜、茄子、トマト、葱）ヲ求メル。既ニ行列ヲ作ッテキタ。自分ガ最后ダッタ。

八月二十七日（月）

森高小使ガ今日モ亦無断欠勤シタト南⁹²⁾君ガ自分ニ訴ヘル。数日前モ全ジ苦情ヲ南君ヨリ聞カサレ不愉快ニ思ウテキタ。夕方、新文相前田多門氏ガ子供ノ時間ニラジオ放送ヲサレタガ中々子供向キデ上手ナ話。

八月二十八日（火）

連合軍隊ノ本土進駐部隊先遣隊ハ本日朝、空中輸送ニヨリ神奈川県厚木飛行場ニ著

陸（四編隊六十一機百五十名）。有末⁹³⁾ 中将案内九月一日ノ新聞写真ヲ見ルト、全中将ハ短身デアッテ、テンチ⁹⁴⁾ 大佐ニ対シ頭ヲ上ゲ肩ヲ張り余リニシヤチホコ張ッテ見エル。ソレニ大佐ニ中将デハ余リニ吊合ガ取レス様ダ

午前九時カラ四階大講堂ニ農学部学生一同集マリ伊藤学部長や道庁山内経済第一部長カラ話ガアリ、次イデ高倉君カラ一般的ノ調査項目ニ関スル話、ソノ次ニ田所⁹⁵⁾、館脇⁹⁶⁾ 両君カラモ土壤、植生ニヨル土地種類ノ鑑定法等ノ話ガアッタ。経済部長ノ話ノ中ニ来年八月頃ガ食糧問題ノ最モ緊迫期トノコト。八月末本道ノ米残禄高ハ十七、八万石(?)トカ。高倉君ノ説明中ニハ時々ユーモアヲ交ヘ上出来。田所君ノハ低声デ後カラハ中々聞取レス。館脇君ノハ簡單明瞭。

八月二十九日（水）

井口水道課長ヲ訪問

拓銀カラ三百円引出ス

馬淵⁹⁷⁾ 君及大谷預金係長ノ二人ニトシテ「戦争と食料」二冊、馬淵君ニ渡ス

昼前歩イテホテルニ向フ。途中、塩見君宅ニ寄ッタガ全君不在。妻君ニフクロクノコトヲ話シテ置イタ。新善光寺脇ノ大和屋館屋ノ前ヲ通ッタトコロ、数人ノ婦人連ガ玄関前ニ待ッテキタ。今朝ハ売出シタトノコト。併シ表戸ノガラスニ休業ト貼紙ガシテアル。帝国館附近デのみヲトギ屋ニ頼ム。市役所ニ井口水道課長ヲ訪ネ、水道新設ヲ依頼。目下ハ労力不足ノタメ新設ハ出来ヌト。併シ材料や労力ヲ自分持チデ会社官庁（時ニハ個人）デハ自分ヨリ後ノ申込者デモドンヘ新設シテキルト。道庁ノ横暴や財務局長(?)ニ縄付ガ出来タトカ。三沢前市長ニ対シ、アンナ者ハ駄目ダ。腹ガ出来テ居ラス。清濁併セ吞ムノ雅量ガナイトカ盛ニコキ下ス。故倉塚良夫⁹⁸⁾ 博士ト全課長トハ深い関係ノアッタコトヲ聞イテキタノデ、ソノコトヲ話シカケタラ三十余年モ一緒ニ働イタトノコト。水曜会デハ理学科梅田⁹⁹⁾ 教授ノ原子爆弾ニ関スル話アリ、ムツカシクテ自分ニハ能ク分ラヌガ、広島市ハ新聞ニアル如キ七十五年ドコロカ今后一千年モ人ガ住メヌドラウトノ意見ニハ耳ヲソバ立テテ聴イタ。

八月三十日（木）

自作農創設ニ関スル集リ

発信 ○清水健二郎氏 ((テ))

○井口定三氏 ((テ))

○駒沢欣一氏 ((テ) 帯広憲兵隊)

朝五時一寸過、家ヲ出デ歩イテ大和屋マデ行ク。三十分デ着イタ。行列トコロカー一人モ戸前ニ居ラスノデ、ハテ変ダナト思ヒソノ辺ニキタ少女ニ聞イタラ、昨日迄数日間開店シタガ今日カラ休業トノコト。帰途、薯畑ヲ荒サレタトテ一家数人、ソノ場所ノ周囲ニ集ッテキルノヲ見掛ケタ。午後一時半カラ道庁経済第一部長（山内）室デ自作農創設ニ関スル委員会ガ開カレタ。福岡事務官ガ案ノ説明ヲ行ッタ。出席者ハ約二十名。吉川¹⁰⁰⁾ 土地改良課長、宮本農業会事務、穴吹企画課長、上村¹⁰¹⁾ 拓銀重役、道庁農政課中村技師等ガ発言

スル。議長ノ部長ハ中々自己ノ意見ヲ挿ム。カナリ緻密ナ頭脳ノ持主ノ様ダ。青木¹⁰²⁾ 君 (金融部次長) モ出席。散会ノ際、自分ハ「農村問題」(昭七) 七部、福岡君ニ手渡し、然ルベキ人々ニ配布スル様ニ頼ンダ。帰リニ青木君ト道庁前ノ電車通りマデ一緒ニ歩キナガラ、一次ノ本所転勤延期ノ事情ヲ聞キ安心シタ。

八月三十一日 (金)

本日ヲ以テ郷軍解散

発信 ○武田憲治¹⁰³⁾ ((テ) 速達)

午前中、薯掘ヲヤル。男爵薯畑ノ半分許リ残ッテキタノヲ掘ッタガ八貫目位アッタ。大キナ薯ガコロヘト指先ニ触レル感触ハ頗ル愉快ナモノダ。最大ノモノハ百十匁アッタ。今迄ノ収穫ト合シ約十五貫目即一俵アッタ。十五貫ニ一寸切レル様ダガ、最初、完熟期ニ至十五貫目ニ三、四百目足ラヌ。

ラス内ニ多少掘リ始メタノデ、ソレヲ今迄放ッテ置イタトセバ、確カニ十五貫目ニハ達シタデアラウ。或ハ其以上ニ上ツタカモ知レヌ。朝、益子ハ琴似ニ出掛ケル。昼少シ過ニ帰宅。澄子ノ縁談ニ付、親類書キヲ戸部様方ニ持参。富子様、急性肺炎ハ大部良クナッタガ、余病トシテ肺尖ガ少シ悪イ由。道庁農政課農地係リニ福岡事務官ヲ訪問。最初ニ昨日ノ道庁ノ印刷物中ノ数字ノ誤リヲ質シ、ソレカラ自己ノ別刷二種ヲ若干部宛、全君ニ渡し、適当ナル人々ニ分配ヲ依頼。ソレヨリ席ヲ列ベテ居ル市川¹⁰⁴⁾ 小作官トモ話シタ。土屋君ノ養父ノ高利貸の大地主振りや、長沼ニアル松田農場ノコトナドラ話シ出ス。

九月一日 (土)

今日ヨリ当市デハ清掃日、「復興ハ清掃から」ノポスター

第八十八議会召集、本日両院成立

数日前砂糖配給、一人前三百二十目三人デ一貫目近シ

夕食ニおはぎガ出ル。近来ニナイ程ノ甘味タツプリ。ゴマ餡モーツ。夕方、大久保氏方ニ出掛ケタラ戸口ノ辺カラ二、三人ノ子供ガ出テ来テ、警官ガ調べニ来テルノデ何ニモ買ハナカッタト話シナガラ通り過ギタノデ自分モソレカラ引返シタ。彼ノ釣堀リノ家ニ寄ッテ尋ネタラ、十月二十日頃デナクバ分譲出来ヌト。行啓通りニ面シタ路傍ノ草ヲムシル。明治喫茶店デトコロ天ハアッサリシテ美味ダッタ。狸小路ノ或店ノショーウキンドウノ蛇類ノ裝飾振りハ中々異彩ヲ放ッテキタ。教室ノ渡辺君カラライ麦粉百匁貰ッタ。

九月二日 (日)

午前九時横浜沖合ミズリー号艦上デ降伏文書調印式挙行、連合軍最高指揮官ダグラス・マックアーザー¹⁰⁵⁾ 其他、当方ヨリハ重光¹⁰⁶⁾ (外相)、梅津¹⁰⁷⁾ (参謀総長) 両全権出席

自宅ノ畑(特ニ垣ノ外ノ東側)カラ砂利ヲバケツノ中ニ入レテ取除イタ。午后、山本政民¹⁰⁸⁾ 君カラ電話来ル。最近除隊ニナッタノデアルガ宅ヲ訪問スルトノコトデ暫ラク待ッテキタガ来ヌ。ソノ内ニ又モヤ電話デ都合ニヨリ今日ハ来訪見合せタト。ソレカラ市教育課長村上氏来訪。長男、雷撃隊ヨリ帰還セル人(少尉、二十五歳)ヲ農経ニ入学サセタイカラ宜

敷頼ムトノコト。青山学院英文科卒。夕方、例ノ大久保方ニ行ク。朝ノ約束ニ反シ茄子ハ今日ハモガナカッタト、胡瓜ハ時節後レトノコト。ヤットマトヲ求メ帰ル。

九月三日（月）

昨二日、大阪警備府近畿軍令局監督部長海軍中将森住松雄¹⁰⁹⁾氏、同部ニ於テ自刃午前中、山本政民君来室。就職ノ件ニ付色々話ス。海軍中尉ノ服装ダガ、来ル五日、全海軍一斉ニ軍籍離脱トノコト。午后、電話デ日本出版会樋口氏ヨリ明日、薄野太陽デ全会ノ集リヲ開クカラ出席シテ呉レトノコト。

九月四日（火）

太陽ノ集リノ帰途、⊕ノ探海灯ガ光芒ヲ街上ニ投ゲテキルノハ一寸景氣ガヨイ。全ク久振りノコトダガコレモ安スルニ^[案]連合国側ノ飛行機ノタメニスルモノト思ハバ悲シイ
第八十八臨時議会開院式（報告ノミ、法律案提出ナシ）

午前中、若林様カラ電話来リ以前燕麦連合会ニ勤務ニ東海林氏ガ自分ニ会ヒタイ旨ノ知ラセガアル。午后、日本出版協会ノ樋口氏来室。ソノ時、東海林氏モノックシ来ル。東海林氏ノ令息、慶応在学中出征セル中尉（海軍）ノ人ガ農経ニ転学シタイトノコト。ソノ間ニ昌彦君ガノックシ来ル。コレモ麦酒配給統制会ノ^[空欄]氏令息、工学部一年生ガ農経ニ移リタイトノコト。コノ数日来、三人モ農経入学ヲ志望シ出シタノヲ見テモ時勢ノ変動ガ窺ハレル。日本出版会（樋口氏）ノ招待会（太陽）ニ出席（午后五時開会）。上原、大賀¹¹⁰⁾、犬飼¹¹¹⁾、安田、桑山、河野¹¹²⁾、石原（庁立図書館長）、小出、山下、柏葉社若主人等出席。太陽ニハ初メテ入ツガ部屋ノ立派ニハ驚ク。シャンデリヤガ煌々ト灯サレタノハ今時ニ全ク珍ラシ。ポタージュ（長芋）、魚、トンカツ、ゼリー（甘味）等中々ノ馳走ダ。太陽ノ盛時ニハ女給八十人モ居タトノコト。

九月五日（水）

衆議院本会議ニ於テ宮様首相ノ施政方針演説ニ次ギ、東郷¹¹³⁾日政政務調査会長ガ唯一ノ質問者トシテ起ツタ。北大ノタメ榮譽ノコトダ

朝早く、大久保氏方ニ二度行キ、二度目ニ茄子四貫目（十円）求メル。水曜会デハ小熊¹¹⁴⁾北方研究所長ノ話ガアル。内実ノ紹介者ハ小熊会員ダ。小熊所長ノ話ハ科学性ノ強調ダッタガ、ソノ話ノ中ニ戦時中、理性ニ欠ケテキタコトヲ述ベタガ、ソレハ少シ無理ナ話振リデアッタ。南一条ノ安全地帯ノ撤去跡ヲ再ビ修理シ出シタノハ氣持ヨシ。

九月六日（木）

昨日、東海林氏来室。事務小山内君ニ会フ様ニ勸メタ。午后、東大ノ野間¹¹⁵⁾君来室。カゼインノコトナドニ関シ興農公社ニヤッテ来タト。全君ノ学位論文題ノコトナド話シ出ス。松田¹¹⁶⁾君ハ農機具問題ニ変更シテハトイフシ、上原君ハ高岡¹¹⁷⁾先生ト相談ノ上、提出ノマ、ノ題（人口問題ト南進論）デ可ナラントイウテ居ルナド話サル。自分ハ全君ニ向ヒ、松田君ノ学論ノ本省通過延引ノ理由ヲ調べテ貰ヒタイト頼ンダ。自分ハ又、我国現在ノ食生活水準ヲコレ以下ニ下ゲテハナラヌ。寧ろ之ヲ引上ゲネバラヌ。賠償金ニ搾リ取ラレルタメニ生活程度ノ引下ニ満足セネバナラヌトイフ様ナ弱腰デハ駄目ダトイヒ出シタ

ラ、野間君ハソレニ反対態度デアッタ。全君ハ土産物トシテ漆器ヲ差出サレタ。牛乳ヲ出シタラ脂肪ガ多イトテ感心。夕方ハ薯ノ大形ノモノヲユデタ。歩イテ帰宅。一兩日前、薯掘リヲヤッタ時、一株ニ一箇而カモ百四十匁トイフ。大薯ガ出テ来タニハ驚ク。一端ガー寸削ラレタガ完全デアレバ百五十匁ハアッタラウ。然シ針食虫ガ穴明ケキテタ。

九月七日 (金)

午後、高岡先生カラ朝鮮ノ大学ノ伊藤俊夫¹¹⁸⁾ 君ノ身ノ上ノコトヲ電話デ頼マレル
夜警番

村上教育課長令息尚志君来室。ソノ時、一次モ来室シテキタ。一次ハ今度又々、金融部次長ガ石狩支部ニヤッテ来テ、愈々、本所ニ近ク移ルコトニナッタ由告ゲル。乾燥馬肉ヲ持参。一次ニ牛乳出ス。今夕、マッシュドポテト¹¹⁹⁾ガ出ル。夜警番ニ初メ九時ニ益子、十一時ニ自分出ル。田口氏ト組ム。益子、夜警カラ帰ルヤ澄子紅茶 (牛乳ト砂糖入) ヲ作ッテ出ス。甘味強ク戦前ノ氣持ガスル。今日ハ久振りデ教室デ書見シテキルト南君ヤ一次ヤ村上教育課長子息ナド入来シ折角ノ頭ヲカキ乱サレ閉口ノ態ダ。

九月八日 (土)

コノ日マックアーサー元帥、進駐軍八千名ガ共ニ帝都ニ入ル
発信 ○市公区係 ((ハ) 転居通知)
○東洋経済 高谷恭三郎氏 ((ハ) 全上)

夕方、南十一条西十三丁目西辻巖氏方ヲ訪ネ澄子ノ縁談 (越山友之¹¹⁹⁾ 氏次男) ヲ依頼、澄子ノ写真ヲ渡ス。実ハ朝、西線電車デ越山氏ト一緒ニナリ、四丁目デ降ルト后カラ全氏ガ呼ビ掛ケテ二男ニ適当ナ嫂^[嫁か]ハナカラウカ。貴君ハ交際ガ広イカラ宜敷頼ムトノコトニ、自分ハ即座ニ澄子ノコト思ヒ浮ベタノデアッタ。

九月九日 (日)

連合軍ノ大湊地区進駐ニ伴フ要求書受領式、午前、米第九艦隊旗艦パナシスト号上デ米代表フレッチャー中將、日本側宇垣大湊警備府司令長官等ノ間デ挙行

夕方、西辻氏来宅。昨日ノ澄子ノ件ノ返事ニ来ラレタ。先方デモ大分乗氣ニナッテキル様ダガ、只一人娘ヲ手離リスルトハ後ヲ如何様ニスルカ、ソノ意向ヲ一寸聞キタイ由。西辻氏ハ今朝早速、越山家ヲ訪ネテ当方ノ写真ヲ同家ノ奥様ニ渡シテ置イタラ、夕方近ク越山氏ガ西辻氏方ニ来ラレー時間半モ話サレタトノコト。ソノ話ヲスルタメニ直チニ拙宅ニ西辻氏ガ見エタ訳。全氏ノ持参サレタ越山家ノ家族調ヲ見ルト相当ノ家柄ノ様ダ。長男ノ妻ハ日魯漁業専務ノ長女トノコト。

九月十日 (月)

成田収二郎¹²⁰⁾ 君、今晚来宅。夜遅ク迄シャベリ電車ニ遅レ遂ニ宿ル。

九月十一日 (火)

東条¹²¹⁾ 大將、昨日自殺ヲ図ル (心臓ニピストル)

午後一時トイフ約束ノ時間ニ澄子ハ母親ニ伴ハレテ越山家ニ出掛ケル途中、西辻氏宅ニ立寄り、ソノ奥様 (子供モ連レ) ノ案内デ越山方ニ行ッタ。先方ハ両親ヤ三兄弟一同揃ッテ

顔ヲ見セタト。〔中略〕澄子ガ家ヲ出デル時ムッチリシテ居テ、ソノ上、風呂上リニモ不拘、顔色ガ白クナラズ困ッタナト自分ハ思ッタ。

九月十二日（水）

水曜会デ糸魚川教学官（前小樽高商教授）ノ大東亜戦争中ニ於ケル商業教育ノ方針変化ニ関スル話ガアッタ。夕方七時、越山氏夫妻ニ文哉君ノ三人来宅。ゼリー、紅茶ヲ出ス。越山氏ハ中々能ク四方山ノ話ヲスル。文哉¹²²⁾君モ中々テキパキシテ話シカケル。横浜ゴムハ二千五百万円ノ資本、小樽ノ三馬ゴムハ資本金三百万円トカ。

九月十三日（木）

縁談ニ対シ澄子ノ心ガ進マヌノデ自分ハ一時先方ヘ断ッテ仕舞フカトモ思ッタ。十一日デアッタカ、澄子ガ陶器ヲ戸棚カラ落シテコワシタシ、ソレニ近所ノコドモデアラウ、宅ノ東側ノ七カマドノ赤イ実ヲ二度モ叩キ落シタリシテ、凡テガエengiガ悪イノニ、澄子ヤ益子ハ不良ナ予感ヲ懷イタトノコト。自分モ亦余リ氣持能ク感じナカッタノデソレヤコレヤデー時縁談ヲ絶切ラウカトモ思ッタノデアッタガ、ソナ短腹ヲ出サズニ好ッタ

発信 ○中村広次¹²³⁾ 君（(ハ)）

杉山¹²⁴⁾ 元帥夫妻、昨日自害

午前十時カラ未利用可耕地実地調査ノ結果報告ヲ資料室デ経済学生ト教官集ッテ開ク。高岡先生モ御出席。薯、枝豆、ビートガ出ル。帰宅後、澄子ガ例ノ縁談ニ心進マヌ様ダカラ、タトヒ先方カラ善イ返事ガアッタトシテモ返事ハ少シ見合ハセテ貰ヒタイト益子カラ聞キ、自分ハ不意ニ打タレタ。一昨日ハ進マヌ様デアッタガ、昨晚ハ喜ンデキタ様デアッタノニ、今日熟考ノ上、氣ガ進マヌ様ニナッタトノコト。午前中、農林専門部ノ浜田¹²⁵⁾ 教授来談。午後、松田教授来室。林君ノ論文ヲ疎開帰農調査（学術研究会議）ヲ利用サセテ貰ッタカラ、ソノ謝礼トシテ五百円ヲ持参サレタガ、ソレハ直接林君ニ渡シテ貰ヒタイト自分ハ極力辞退シテ受取ラナカッタ。

九月十四日（金）

午後二時ヨリ教授会。ソノ直前、収二郎君来室。教授会后、又モ来室、遅ク迄話シタノデ自分ハ歩イテ帰宅ヲ余儀ナクサレタ。七時近イ頃、南十一条郵便局附近ヲ自分ヨリ前方ニ南ニ向ケ歩ンデキル男ガアリ、西辻君ノ中通リヨリ東ニ折レタノヲ見テ自分ハソレガ越山氏ダト直覺シタ。夕食ニハ天プラガ出ル。今日ハ澄子ガ縁談ニ対スル態度ガ緩和サレテ来タ様子。併シハッキリトハイハヌ。西辻氏ガ早ケレバ今夜、遅クトモ明朝ハ報告ニ来宅サレルモノト自分デハ推量シテキル。朝、山下勉¹²⁶⁾ 君（拓銀釧路支店次席）来宅。令息（十九才）ヲ大学農場ノ小作人ニ入レ度イガ可能性如何トノ尋ネデアッタノデ、農場事務所ノ真田¹²⁷⁾ 氏ニ電話シタガ其望ミナシ。一戸分（五町）ノ小作権ノ売買価格ハ五千円乃至一万円トハ驚ク。

九月十五日（土）

収二郎君ノコトデ興農公社ノ佐藤¹²⁸⁾ 重役（貢君）ニ電話カケル。全社デ千数百人ノ

復員ガアルト

朝、西辻氏来宅。越山家デハ澄子ヲ貰ヒ受ケタイトノコト。若シ縁談成立ノ暁ハ十一月末カ十二月初メニ挙式シタシト。ソシテソレマデハ横浜ゴム会社ニ在勤サセテ置クト。又、家庭ハ札幌附近ニ営マセル積リラシイ。収二郎君、午后来室。澄子ニ二十円与ヘル（高倉君学論審査手数料四十一円中）。澄子、今日ハ機嫌ガヨイ。結婚ヲ決心シタト見エル。帝銀支店ト札幌市役所ニ出掛ケル。市役所ニ行ッタノハ高額国民貯金払戻ノ件デアッタガ、其係リノ老人ガ中々ウントイハヌ。理由書ヲ提出セヨトノコト。自分ノ金ヲ容易ニ引出サレヌ世ノ中トハ扱テモ不自由ナ世ノ中ト思ッタ。夕食ノ薯団子ノバタ焼ノ美味甚シ。

九月十六日（日）

澄子ハ上田氏訪問ノ結果ヲ自分ヨリ聞ケタ後ハ一層喜ンデキル様子

朝、西辻氏宅ヲ訪ネル積リデキタトコロ、全氏宅ハ今日大掃除ノ由。昨日聞イテ居タノデ取止メニシタ。ソシテソノ内ニ細雨ガ降り出シテ来タガ程ナク止ンダノデ久振リニ赤紐靴ヲ穿イテ神社脇ノ上田村次郎氏方ニ出掛ケル。雨上リスガスガシイ。上田氏兩人共在宅。越山氏家庭ノコトヲ尋ネタ。殊ニ上田氏令閨ハ相当詳シク全家ノ事情ヲ知ッテ居ラレ好都合デアッタ。文哉君ハシッカリシタ嫁デアッテ箒ヲ持ッテダンツクヲ追ヒカケル位ナ女ヲ好ムトイフコトヲ聞キ、自分ハ大イニ安心シタ。帰リテ桑園ノ市場ニ遠藤商店方ニ立寄り、例ノ令嬢カラ若布ト葡萄糖ヲ多量ニ分ケテ貰ヒ嬉シカッタ。夕方近ク、勝美君来宅。トーキビ持参。

九月十七日（月）

高額国民貯蓄組合貯金引出ニ対スル組合長ノ認印ヲ漸ク得タ。払戻理由書ヲ提出シタガ中々承知セズ。建築税納入ノ証明ヲセヨトイハレタガ、幸ヒ杉山課長ガキタノデ助カッタ

マッカーサー元帥、東京ニ進駐、第一相互ビルニ入ル

午后二時過、道庁第一経済部長室デ既得地高度化利用ニ関スル協議会開、出席（渡邊教授ト共ニ）

朝七時、西辻氏宅ヲ訪問。澄子ヲバ快ク越山家ニ縁付ケルコトニ決メタ由ヲ告ゲ、其ノ旨、先方ヘ通ズル様ニ頼ンダ。全氏宅ヲ辞去スルヤ天気晴朗。ソレニ話ハ順調ニ進ム。気分此上モナクスガスガシイ。初メハソノマ、登校スル積リノトコロ、時間ハ早過ルシ、ソレニお芽出度ノ報告モシタイト思ヒ、一旦帰宅シタ。澄子ハ未ダ登校前デアッタ。朝、西辻氏ヘノ返事ノ言葉ノ中ニ「無理ナ願ヒデハアルガ是非札幌及ソノ附近ニ新家庭ヲ持チ得ル様ニ」ト先方ヘ頼ム様ニ頼ンダ。上述ノ道庁ノ集リヲ後ノ辺デ中座ス。ソレハ七時カラ越山氏ガ来宅スルカラダ。定刻ニ而カモ思ヒ掛ケナクモ奥様ト全道デ来宅。正式媒妁人ヤ式場ヤ挙式日取りナドヲ話し合フ。文哉君ノ趣味ヲ尋ネタラ俳 偕^{〔書〕}ト人物月旦トノコト。トマトヲ出ス。越山氏ハ応接室ニ通ルヤ否哉、御宅ノ大切ナ御嬢様ヲお貰ヒ受ケシテ有難ウトノ挨拶ヲ述ベラレタ。今度ノ話デ愈々縁談ハ確定シタ訳。結納迄ハ西辻氏ヲワズラワスコトニシタ。正式媒妁人ヲ先方デハ最初、自分ニ決メテ呉レトノコトデアッタガ辞退シタノ

デ、先方デハ古^[谷]屋¹²⁹⁾氏ニ頼マウカトイッテキタ。上田村次郎氏ノ話ハ出ナカッタ。

九月十八日（火）

配電会社訪問

南瓜（澄子ノ共同畑ヨリ分配）ノ初物、美味

午前九時半カラ経済ノ教官学生一緒ニ水産協ノ増産畑ヲ整地スル積リデアットコロ、雨天ノタメ出来ナカッタ。昼頃、登校ノ途次、北海道配電会社ニ其係ノ主任ヲ訪ネテ、軒灯取付方依頼シ全時ニ願書ヲ手交。本月中ニ如何カト念ヲ押シタラ今月中ハ少々無理ナ様ナ口吻デアッタ。田口氏宅デハ既ニ昨日ヨリ軒灯ヲ点ケタ。学校ニ成田収二郎君カラ電話来リ、興農公社ノ就職依頼ノ件ハドウナツカトノ尋ネ。ソレカラ午前中、江別ヨリ出札ノ途中、ズボンノポケットカラ二千五百円スラレタノト話ヲ語り出シタ。ホンドニ気ノ毒ノコトヲシタ。本科入学ハ断念シタトノコト。今カラ三年半ヲ要スルコトヲ考ヘタラ、ソノ方ガ賢イト思ハレル。

九月十九日（水）

水曜会デハ出納功氏（日本新薬株式会社々長）ノ話ガアッタ。今次戦争中ニ於ケル独逸ノ娛樂等ノ話。二時半カラ食堂ノ集リヲ開ク。増産畠配当ノ薯ガ出ル。渡辺君ト全道歩イテ帰宅。夕方、駒沢君来宅。一昨日、召集解除ニナツタ。前ヨリ肥満シテ来タ。[後略]

九月二十日（木）

夕刻、西辻氏、結納ノ日取ニ付来宅。益子ト話合フ。二十三日ノ秋季皇霊祭ノ日ニ先方デ決メラレタトノコト。一時半カラ経済ノ増産畑作業ニ出ル。水産ノ防空壕ノ杭ヤ板ノ取除。

九月二十一日（金）

武田教学官カラ松田教授学位記ノ件ニツキ返信（速達）アリ、伊藤学部長ニモ見セル午前中、若シヤト思ヒ月寒ノ肉店（伊藤）ニ出掛ケル。丁度昼ノ休時間デ数人ノ買手ガ皆シメ出サレタニモ不拘、自分ニ丈ケハ特別ニシテ呉レ妻君ガ出テ来テ五百目分ケテ呉レ嬉シカッタ。ソレカラ刃ガ珍シク開店サレテキタノデ、裏口カラ入ッテ主人ヨリキャベジ¹³⁰⁾ニケ求メタ。一時半カラ南ノ増産畑作業ニ出ル。水産ノ防空壕ノ埋立ノ続キダ。朝、益子ト二人デ末広屋ニ行ク。自分ハ拓銀カラ六百円引出ス。

九月二十二日（土）

水口彦太郎氏（帰郷）ヨリハガキ来ル。結婚ノコト宜敷頼ムトアリ、一寸ノ時間ノ差デ当方デモ迷フコトニナルトコロデアッタ

高岡先生来室。伊藤俊夫君ノ件、先日先生ガ自分ニ頼マレタ前ニ帯広ノ宮脇¹³¹⁾校長ニハ手紙ヲ出シテ頼マレタ由

拓銀カラ二百三十円引出ス。農場産男爵薯十三俵（経済教室配給）ニ対スル立替（一俵十七円七十銭）ノ積リデアットコロ、ソノ必要ナクナリ自分ノ責任ノ三俵丈（内二俵ハ自分個人、残り一俵ハ五教授分配ノ積リ）デヨカッタ。午後一時過、召集解除（昨日午前）ノ成田君ガ堀越¹³²⁾君ト共ニ来室。高岡先生来室サレ、朝鮮ノ伊藤俊夫君カラ去月二十三日附ノ手紙ガ一昨日着イタガ、ソレニヨレバ自分ト上原君ニ宜シク身ノ上ノコトヲ頼ンデ

呉トノコトヲ話サレ、最后ニ樺太ノ高山ノ安否ヲ尋ネラレ、連絡ノ方法ヲモ教ヘラレタ。
又、畜産ノ斎藤¹³³⁾ 君 (岩見沢) モ来室。高山ノ安否ト某高校文科出ノ経済志望ノコトナ
ド話ス。

九月二十三日 (日)

結納

秋季皇霊祭

千円ニ五百円返ス

今日秋季皇霊祭ノ佳キ日ヲ選ビ結納ヲ取交ワス。午前十時二十分頃、西辻氏夫妻婿方ノ結
納ヲ持参サル。七品デアル。当方ヨリモ全数ノ結納返シラスル。ソレガ終ルヤ否哉、お膳
ヲ出ス。ブドー酒、ビール、赤飯、吸物 (落葉松茸入)、桜肉ノフライ (キャベジ添)、甘
煮 (桜肉、干瓢、高野豆腐)、小手芒 (カンヅメ、有糖) ニ砂糖フリカケ、数ノ子、キャ
ベジ漬物ナドダ。引物トシテハ数ノ子 (布袋入り、表面ニ「寿」ト記ス) ト苹果 (果樹園
配給ノ十四号) ノ二種。西辻氏ハ当年四十一才トノコトデアルガ、奥様ハ庁立高女二十六
回卒デ三十四才位。里方ハ相当ナ木材業デアッタラシ。中々快活ナ人デビールモブドー酒
モ飲ンデキタ。自分ニ向ヒシラガデフケテ見エマスト率直ナ言葉ヲカケル。一時十五分頃
辞去サレル。

九月二十四日 (月)

朝、橋本製粉所ニ苹果持ち行ク

去月二十四日発生ノ島根県庁焼失事件、本二十四日解禁トナル

昨晚モ今朝モ西辻氏ノ来訪ガナイ。今晚モ見エヌノデ結納ノ結果ニ付、少々心配シ出ス。
今迄頗ル正確ナ人デ凡テノ来訪ノ日時ハ早過ル位デアッタノデ、ソレト比ベテ聊カ心配シ
出シタ訳。拓銀ニ一千円預金ス。午前中、予科講堂ニ服部¹³⁴⁾ 予科長ヲ訪レ、水口講師ノ
コトヲ聞キ質ス。服部氏ハ岩瀬¹³⁵⁾ 教授一家ノコトヲ褒メソヤス。伊藤学部長ガ自分ニ向
ヒ、今日、進駐軍ノ下調べトシテ農学部本館ニヤッテ来ル筈ダガ、ソノ節ハ経済ノ書庫モ
見ル予定トノコトニ四時半頃迄待ッテキタが見エナカッタ。澄子来室。ハンダ十本、農場
配給ノ男爵薯ヲリュックデ家ニ持ち帰ル。

九月二十五日 (火)

成田収二郎君、履歴書、公社ニ出ス

北大卒業式、総数五〇二名 → 農学部 — 86

医ク — 77

工ク — 127

理ク — 55

医専 — 89

農林専 — 37

土専 — 31

朝早く、澄子ト石炭運ヲスル。朝食后、鈴木大五郎様宅ニ行キ疎開荷物ノ行李ニケ受取り

隣保車デ家ニ運ブ。中々ノ骨折ダ。昼頃、薯ヲリュックニーパイ、折靴ニモーパイツメテ家ニ帰ル。ソレカラ中村デ散髪シ次イデ興農公社ニ佐藤専務ヲ訪ネ収二郎君ノ履歴書ヲ差出ス。帰りハ非常ナ雨。夏服ノズボン、ズブヌレ。朝、登校ノ途中、西辻君ト全君ノ住ヒノ仲通りノ辻デブツカリ、結納返シヲ確カニ届ケタコト、文哉君ガ兩三日、上京シタコトナド話サレ、自分モ始メテ安心。午後、風呂水ヲ汲ンダガ初メ今日立テル筈ノ所、色々ノコトデ明日ニ延バシタ。今夕、マック元帥伝ガ放送サル。武勲許リデ深味ガナカッタ。北大卒業式、経済デハ上村一人。自分ハ歩イテ登校シタガ、一寸式ニ遅レ君ガ代奉唱中デアッタ。后デ駒沢君カラ聞ケバ、今日、進駐下調べトシテ本館四階及塔ヲ見タトノコト。
九月二十六日（水）

発信　○成田収二郎氏（（ハ））

○波多野一氏（（ハ））　→　四十三回配当金未着

昨日デアッタカー次カラ電話来リソレニヨレバ、樺太ノ高山一家ハユックリ避難退島ノ積リデキタノデ無事トノコトヲ菅原氏ノ奥様ガ一次ノ宅ニ郵便デ知ラセテ来タトノコト。自分モ安心シタ

佐藤昌彦君論文持参

水曜会ニ熊谷¹³⁶⁾ 地方総監ノ話ガアッタ。紹介シテ来タ人ハ上田氏ラシ。永井親睦委員長ノ紹介ノ評ハ余リニ卑下シタ様デ学者トシテハドウカト思ッタ。総監ハ進駐軍ニ就イテ主ニ語ッタ。自分ハ進駐箇所ニ大学ハナツタカト質問シタガ、ソレハ分ラヌ、予科ニ先キニ検分ニ行ク筈デアッタガトイハレタ。左側通行ノコトデ通訳ニ立派ナ出来栄ノ人が居ラヌコト、ソレニ関連シ近イ内ニ札幌ノ文化人ニ、三十人ニ集リヲ請フコトナド話サレタ。ホテルヲ一般ニ使ヒ得ルノハ今日限り。随ッテ水曜会ハ代リノ会場が見付カル迄、当分休会ノコトヲ伊藤¹³⁷⁾ 会長宣言。収久衛¹³⁸⁾ 君来宅。品川秀三¹³⁹⁾ 氏ガ今度全社調査課ノ囑託トナッタ由。今日モ薯運ビ。

九月二十七日（木）

朝、清水健二郎君宅ニ立寄ル。舌下腺炎

越山家ニ益子ト二人出掛ケル

小使ヲ興農公社ニバター取りニヤッタガ売切レタノデ来週来ル様ニトノコト

文哉君、去ル廿二日上京

熊谷総監カラ明二十八日夕刻、三井クラブニ於ケル会合ニ招待状ヲ受ク。進駐軍ニ関シテノコト。昨日ノ文化人云々ノ実現ラシ。自分ハ礼状出シタ

今日ハ二回薯運ビヲスル。初回ニ残セル一俵ノ口ヲ切ッタガ、明日一回デユックリ運ビ終リサウダ。リュックト両手デヤレバ充分ハカ取ルモノダ。午後、西辻ノ奥様、結納返シニ添ヘテ越山家ニ送ッタ縮緬ノ風呂敷ヲ返シニ来宅トノコト。コノ風呂敷ハ数年前、自分ガ台北デ大枚十七円ヲハリ込メタ千羽鶴ノ大シタモノ。コノ際、先見ノ明ヲ益子カラタ、ヘラレ自分モ気持能カッタ。益子ガ配給ナドデ忙シク今日モ風呂立テラレヌノデ銭湯ニ行ク。夕方六時半頃、益子ト二人デ家ヲ出デ越山家ヲ訪ネル。自分ハ初メテダ。折柄、

越山氏ハ三人ノ令息ト共ニビルノ荷物運ビニ出掛ケテ留守。奥様ト話ス。友孝¹⁴⁰⁾ 君ノ妻君ハ案外上品ナルニ驚ク。ココア(甘過ル位)トコーンフレーク出ル。越山ビル、進駐軍ニ今日突然検分サレテ徴用決定。ソノタメ親子四人ビルニ出掛ケタノコト。文哉君新家庭ヲ置ク積リナノガ当テガ外レタコト。結婚披露宴会場ガホテルノ進駐軍占領ノタメ適当ナ場所ガナク閉口。三井クラブガ使ヘレバ料理ハ当方持参シテモヨイト中々景氣ノヨイコトヲ奥様語ッタ。媒酌人ハ古^{〔谷〕}屋¹⁴¹⁾ 君夫妻デハ若過ル様ナ口吻。自分ガソレデハ今総長ニシテハトイヒ出シタラ、至極賛成ナ様子。航空耐寒食(ウイスキー入、チョコ)ト固形卵黄ヲ受ケテ帰ル。八時ニ帰宅。

九月二十八日(金)

朝、越山ビルニ越山氏ヲ訪ネル。一人ノ田舎ラシキ人ト対談中デアッタ。進駐軍ニ占有サレルコトニ決ッタノデ越山事務所ノ引越ニ大童デアッタ。子息達ニ会ヘルカト思ッタガ、一同、倉ノ方ニ出掛ケテ不在。

九月二十九日(土)

朝早く、市場ノ西側ニ新築中ノ二軒ノ家ノコトヲ茶氏方ニ尋ネニ行ク。営団ガ建テ、キル様ダガ悉^{〔委か〕}シクハ其処ノ大工サン(全公区ノ浦島トカイフ)ニ尋ネヨトノコト。朝、東屯田通り坂上局前ノ行李屋ニ行キ一番行李ヲ無理ニ頼ム。夕方出来ルトノコトニ夕方近ク立寄ッタガ店主夫婦共不在デ、女工員丈ケデ用ガ弁ゼズ。午后、上原君来宅。道庁ノ未開地開拓事業ニ対スル経済教室ノ援助ヲ自分ニ頼ム。一寸、俊夫君ノコトモ話ス。今日、配電会社カラ軒灯取付調査ノタメ人ガ来タトノコト。ソシテ来月中頃迄ニ出来ルト。嬉シイコトダ。夕方、収二郎君カラ電話来リ、兄ノ収久衛君ガ自分ニ英語ノ会話ヲ習ヒニ今夜カラ来タイトノ依頼ニ、ソレハソノ柄デナイト即座ニ断ハル。

九月三十日(日)

夕方、越山方ヲ訪ネ十五丁目ノ新屋ノコトヲ知ラス。老母様出デ来ル。初対面。他ノ人々ハ全部ビルニ出払フ

薯ト大根ノ中耕ヲヤル

今夕、松平トイフ浪曲家ノ浪曲ニハ感心シタ

朝、東屯田通りノ平野行李屋ニ行キ、昨日約束ノ一番行李ヲ入手。六十五円(最上品)デアッタ。カバンノ中ニ万一ノタメニmm二本ヒソメテ行ッタガ不必要デアリ、大々成功ダッタ。澄子ヤ益子ノ喜び一方ナラズ。朝早く、故花崎一郎¹⁴²⁾ 君ヘノ教室ノ追悼寄書ノ筆頭ヲ書ク。次イデ予科本庄¹⁴³⁾ 君ノタメニ色紙ヲ書ク。午前ヨリ午后ニカケ薯掘リヲヤル。生籬外ノ紅丸ダガ、二俵以下穫レタ。中ニハ大粒モ中々多イ。通行人ガ賞メソヤス。コレデ籬内ノ試験所産ノ薯ヲ除キ全部掘ッタ訳。午后、益子、高杉¹⁴⁴⁾ 助教授方ヲ訪ネ、澄子ノ辞職ニツキ御礼ヲ述べル。ハンカチ(半折)持参。

十月一日(月)

三時カラ一中全窓会父兄会連合会開カル。五十周年記念会ノ催シニ関スルコト午前中、故花崎一郎君ニ対スル記念画帖ヲ荒又¹⁴⁵⁾ 君ニ返ス。筆頭ニ自分ガ鬼神泣壮烈(其

外ニ細字ニテ感想文ヲ認ム）ノ文字ヲ書ク。十二時半カラ突然、教授会。農学部本館ヘノ進駐決定付テバアル。島教授関係ノ室ガ全部、軍医ノ実験室ニ使ハレルノダ。電車、fare 10 yen ノ貼紙ガ目ニ付ク。

十月二日（火）

理学部化学教室デ澄子ノタメ送別会ヲ開ク。南瓜ガ出ル。一部持ち帰ル。美味
松浦鎮次郎¹⁴⁶⁾ 氏死去。新聞ニ出ヅ。□□□□□□□□仁ニ残シ死去トハ時代ヲ反映乎

朝、鈴木大五郎様方ニ寄り、厚別ヘノ疎開荷物六ケノ運賃三十円（一ヶ形ノ大小ニ不拘五円）ヲ払ヒ、外ニバター一封度贈ル。例ノ北八条ノ古物店デ日果林檎酒ビルヲ初メ五円トイッタノヲ三円ニマケサセテ求メル。一旦帰宅、昼食。二時半カラノ教授会（総長改選）ニ出席。澄子、辞表ヲ高杉助教授ニ提出。

十月三日（水）

澄子、本日、辞表ヲ田所教授ニ提出シ、即日解職ノ辞表ヲ受取ル
水曜会ハ当分休ミ

拓銀人事部ニ電話シタラ、清水君、去ル一日、辞令ヲ受取ツタ由
十時カラ食堂デ五教授集リテ開キ、総長ヘノ報告書ノ内容ニツキ相談。邦語ノ英訳ナドニ時間ヲ費シツマラス。終ッテ上原君カラ道庁ノ土地調査ニ対スル教室ノ協力方ヲ希望。故花崎君ヘノ弔慰金三十円ト決メ、各職員ノ配当ヲ定メタ。夕方近く、西十五丁目停留所ノ所デ越山氏ニブツカル。ビルノ再掃除ヲ命ゼラレ、テンテコ舞ヒトノコト。自分モ一緒に十一條デ下車、歩キナガラ話ス。文哉君、愈、小樽転勤ト決ツタ由、来電アッタトノコト。又、南一西十七ニ全氏ノ借家ニ新家庭ヲ予定シテキルト聞キ、自分モ安心シタ。

十月四日（木）

進駐軍ノタメ今日カラ六日迄三日間、女子職員ハ昼迄ニ退庁

政治警察廃止ニ関スル連合軍総司令部覚書ガ政府ニ手交サル。而シテ内相及全国警察
首脳部ノ総罷免ヲ要求

夕方八時頃、越山氏来宅。丹前様ノモノヲ著用。石狩産ノ鮭四半身持参。全家ニ以前女中ヲシタ女ガ持ッテ来タトノコト。四方山ノ話ヲスル。多額納税者ノコトヲ聞イタラ本道ニ二百名許リ居ルトノコト。多イノハ伊藤豊次君ノ二、三十万円カラ少キハ一千五百円位ノ納税額トイフ。多額納税議員ノ選挙有権者名簿ハ五年毎ニ作製スル由。伊藤誠哉君ノ新潟寮寄附金ニ付テノ逸話ガ出ル。建築費ノタメ娘ノ結婚費モナクナッタトサメへ泣キ出シタトハ、伊藤君モ案外ナ男ダと思ツタ。

十月五日（金）

進駐軍札幌ニ入ル（8000名小樽ニ上陸后）

昨日ハ退校途中南一条西十七丁目ノ笠井鍼灸院ヲ通ッテ家ノ様子ヲ見ル。五日モ再ビ見ニ行ク

東久邇宮内閣総辞職（一ヶ月半ノ寿命）

収二郎君来室

例ノ釣掘リニ出掛ケ鯉ヲ頼ンダガ幼魚数本ヨリ分ケラレストノコト。一貫目十二円余澄子、朝、越山家ニ昨夕ノ風呂敷ヲ返シニバターヲ包ンダトコロ、コレハ何デスカト奥様ニ尋ネラレタトハ、ドコ迄モサッパリシタ家庭ダ

全学会解消ニ関シ横溝¹⁴⁷⁾ 主事報告ノタメ来室

進駐軍入市ノタメ電車モ途中デ降サレルヤモ知レスト心配シ午前歩行シテ学校ニ出掛ケル。北一条ノ通りハ清掃サレ通行人全クナク巡查ガ角々ニ立ッテキル。北五条ノ電車通りモ全様。驚ク許リノ警戒振り。十時半頃デアッタカ、魔ノ踏切りニ差シカ、ルト、米兵満載ノ列車ニブツカッタ。行儀ヨクキチント腰掛ケテキタノハ一寸感心。昼頃、田所君ヲ山下研究室ニ訪ネ、澄子退職ノお礼ヲ述ベル。(朝ノ新聞ニマックアーサー側ノ言トシテ今後ハ皇室及天皇ニ関スル論議ヲ自由ニスル積リトアルニハ驚カザルヲ得ヌ) 全君ガコレニ関シ、或ハ皇室財産ニ手ヲ触レル様ニナルカモ知スト心配。ソレヨリ高杉君ヲ化学実験室ニ訪ネ同様挨拶ヲスル。昼、経済ノ食堂ヲ一寸覗クト上原君等ガキテ全君ヨリ矢島¹⁴⁸⁾ 君出獄(10日以后)ノ出迎ノコトヲ聞ク。

『四日連合国軍最高司令部ヨリノ「政治、信教ナラビニ民権ノ自由ニ対スル制限ノ撤廃」通告中「天皇及ビ皇族ヲ含ム日本ノ制度ニ対スル批判ノ自由」』

十月六日(土)

幣原¹⁴⁹⁾ 男ニ大命降下

久振りニ雲月ノ浪曲ガ今夜アル。一時死亡説ノアッタ女ダ

朝割合早ク出校。今総長ヨリ電話来リ地木社長林常夫氏ガ自分ヲ訪ネタイトノコト。暫クスルト全氏来ル。アメリカノ経済体制ヲ尋ネラレタガ自分ニハソノ知識乏シク日本ノコトニ話ヲ外ラセタ。越山氏モ全社ニ来テ居ルトイフ。sofa 上ノ書物ヲ全部記簿整理シ気がサッパリスル。昨日、農場ヨリ牛肉配給。昨今両日、食膳ニ上セタ。夕、吉田豊吉氏、自宅ニ立寄ラル(自分ノ不在中)。

十月七日(日)

御料地下賜ノ新聞記事出ヅ

家庭園ノ薯総収量三俵ト十三貫三百目位。昨年ヨリ一俵以上増収

夕方近ク勝美君来宅。キャベシト南瓜トドチヲ好キカト尋ネラレ南瓜トイッタノデニケ置イテ行ク。今月一日カラ道庁内ニアル肥料需給協議会技手トシテ出勤シテキルト。キャベシハ農産課中村技師ノ宅ニ持ち行ク由。夜、清水健二郎君来宅。去ル一日、拓銀ヨリ辞令(調査役月百九十円)ヲ受取ッタトテ持参。保証人トシテ署名スル。全君、石鯰(3ヶ)、ライオン練歯磨(2本)、歯ブラシ(10本)ヲ持参。

十月八日(月)

西北市場遠藤商店ニ立寄り娘サンニ帯止ヲ贈ル

行幸記念式ナシ、但全日休ミ

矢島君昨晚出所ノ由、上原君ヨリ電話来ル。今日早速学校ニ行ッタガ、松田教授丈ニ

会フコトガ出来タト。上原君方ヘハ電話シテ来タト

昨七日、益子代田方ニ樺太菅原夫人ヲ訪ネ高山ノコトヲ尋ネタ。八月十八日大泊出帆
ノ小笠原丸ハ遭難シタガ、高山トハ十九日昼、会ツタトノコトニ自分モ安心
朝、例ノ大久保氏方ニ行キキャベシ二十ヶ頼ム。主人、朝食中デ済ムノヲ待ツ其間ニ老婆
ト話ス。宅前ノ黒松ハ十七、八年ニナルト数尺ノ苗木デアッタト。朝、月寒^天店ニ出掛ケ
ル豊平バス運転休止ノタメ相当ノ雨中ヲ歩ク。米軍ノジープガ盛ニ前方カラ走ッテ来
ル。^天主人トユックリ話ス。無理ニキャベシーケ譲ッテ貰フ。空瓶ニツ求メル。伊藤肉店
デ桜肉五百目求メル。誰モ全店ニハ客ガ見エヌ。月寒市街ニハ歩ク人影モ誠ニ寥々タルモ
ノ。^天店ニ玉蜀黍ヲ頼ンダ。一回帰宅シテ中食シソレカラ拓銀ニ阿部人事部長ヲ訪ネ、清
水君採用ノ礼ヲ述べ、永田頭取ハ橋本病院ニ出掛ケ不在ノタメ、折柄ヅッカッタ田村庶務
部長ニ伝言方頼ム。田村氏ヨリ親展ノ農実ノ卒業生ノ農経入学希望ノコトヲ話サル。ソレ
ヨリ南支店ニ藤村調査部長ヲ訪ネ全ジク挨拶スル。清水君モ居タ。

十月九日（火）

拓銀ニ永田頭取ヲ訪問

幣原内閣成立

午前ノ農史、午後ノ農政ノ時間ニ矢島、川村¹⁵⁰⁾ 両君ノコトヲ話ス
今日デアッタと思フガ、興農公社佐藤専務ニ電話シ収二郎君ノコトヲ尋ネタガ、復員者ノ
方モ既ニ片付イテ来テキルノデ今暫ラク待タレヨトノ返事。午后遅ク、昆虫ノ内田¹⁵¹⁾ 教
授来室。全科新卒山本隆司¹⁵²⁾ ナル人ヲ農業会ノ笠島人事課長ニ宜シク頼ンデ呉レトノコ
ト。昼近ク拓銀ニ永田頭取訪問。清水君採用ノ礼ヲ述べル。ソノ際、自身ハ先般東京ニ赤
羽¹⁵³⁾ 氏ヲ訪ネタ時、全氏ヨリ北大出ハ公平ニ見テ東大出ナドニ比べ見劣リガスルトイハ
レタ。併シ北大出ノ内ニモ相当ナモノモ居ルデアラウカラ宜シク頼ムト頭取ニ頼ンダ。頭
取曰ク、北大出ガ不振デアッタノハ鑑定ノ方ニ固定シテキタ為メデアルトノコト。

十月十日（水）

幣原内閣デハ吉田¹⁵⁴⁾ 外相、木村¹⁵⁵⁾（？）陸相、米内¹⁵⁶⁾ 海相、松村¹⁵⁷⁾ 農相（厚相ヨ
リ転）ノ四相留任

朝、農業会ノ笠^[島]原人事課長ニ電話カケタラ、試験場（中等学校出身者ニ対スル詮衡）ニ
出テキルトノコト。電話口ニ出テ貰ッテ、久田¹⁵⁸⁾、北田¹⁵⁹⁾、山本政民ノ三経済出ノ外ニ、
昨日内田教授ヨリ頼マレタ山本隆司君ノコトヲ頼ンダ。本日、豊原ノ正見君ノ奥様カラ益
子ニ電話来リ、高山サンノ家族来札シテ居ラヌカトノ尋ネデアッタト聞き、自分モ一寸心
配シタガ、ヨク聞ケバナンデモナカッタ。

十月十一日（木）

発信 ○北農会課長笠島彊一氏（（テ）小使イヲ走ラス）

寒サ強シ

明十二日学事振開催トノ通知状ガ本日届ク。一日ノ日附ノ手紙ダ
午後ヨリ出校。去月二十九日付ノ勉励手当ト研究手当トガ出ル。両者共、昨年ト全額ダガ

所得税ガ殖エタ為、手取金ハ減少。午前中随分冷エタ。茲数日来、radio ノ英語会話ニ耳傾ケル。午後ノ農政演習ハ休止。高等学校長会議デ安倍¹⁶⁰⁾ 一高長ハ高校三年制デハ年限過少トノ説ヲ固守シタト radio デ聞ク。

十月十二日 (金)

拓銀ニ貯金ニ行ッタ。序ニ馬淵、池原両君ニ会ヒ清水君ノコトヲ宜敷頼ム。全君ノ月給百九十円ハ全行子飼ノ者ニ比べ割高ダト羨ム様子ニ見エタ。ソノ時、池原君ヨリ八月二十日朝以降、豊原ヨリ退出避難ハ不可能 (汽車デハ) トナッタト聞キ高山一家ハ十九日昼迄ハ確カニソコニ居タノデ、先ヅ安心ト思ッタ

浜子¹⁶¹⁾ 来泊

今夕、水谷長三郎¹⁶²⁾ 氏ノ「新生社会主義政党ノ立場」ト題スルラジオ公演ガアッタ。中々精采ニ富^{〔彩〕}ンダ雄弁デアッタ。今迄聞イタ政治家ノソレト比ベルト段違ヒデアッタ

朝、塩見氏方ニ立寄り「フクロクストープ」ノコト、下駄箱、ホームスパン仕立 (澄子) ノコトナド尋ネル。吉田館屋ノ玄関先デ米進駐兵二人入り来リ、Sake Kojo ノ行先ヲ尋ネタ所、全店ヨリ現ハレタ青年、流暢ナ英語デ応答。maybe ナド使フ所ヨリ考ヘ相当ノ英語力アルモノト思ヘタ。北海道酒精工場ヘ曲ル所デ自分モ一寸声掛ケテ行先ヲ教ヘテヤル。Thank you, O.K. ト彼等ハ答ヘタ。午後、中村床屋デ又モヤ米兵多数入り居ル。後来ノ米兵ニ I suppose you are busing for military service ト声掛ケ、先方ニ敬意ヲ表シヨウトシタガ、go ahead ト答ヘテ遠慮シタ所ガ可愛イ。夕方、台所カラ突然、澄子が珍客入来ノ如キ声ヲ出シタラ、ソレハ浜子デアッタ。泊ル。昆布ト新巻鮭一尾持参。

十月十三日 (土)

夕方、日本自由党ノ鳩山一郎¹⁶³⁾ ノラジオ講演ガアッタ。上手ナ方ダガ昨夜ノ水谷氏程ノ迫力ハ見出サレヌ (鳩山氏ノ演題ハ「新シイ事態ニ対シテ」)

朝、浜子、家ヲ辞去。明日午前中、札幌出発、郷里利尻ニ帰ル。来タ時ト全ジク連レノ婦人ト共ニ。旅行者外食券十枚残ッタトテ置ク。氣ノ利ク女ダ。又、電車切符十三枚モ呉レル。三国方ニモ寄ッタソウダ。全家ノ母親ハ矢張り浜子ノ長女みいチャンノコトヲ想ッテキル由。午前中、益子ハ澄子ヲ連レ琴似ノ山田家ニ行ク。二、三貫目丈木炭ヲ老母ノ為ニト持ち行ク。帰りハ三時過ギデ南瓜、キャベシ小手芒ナド持ち帰ル。ソレカラ自分ハ歩イテ昇校。丁度四十分デ室ニ著ク。帰りモ歩ク。往復八十六分位 (数学教室ニ居タノヲ差引ケバ正味八十分位ダ) ニ過ギス。帰宅ガ余リ早クテ一同驚ク。教室ノ廊下ニ「学生研究会」開設ノ広告ガ出テキタ。記名者ハ農経吉川¹⁶⁴⁾、金田¹⁶⁵⁾ 兩人。浜子帰りニ澄子ニチョコレート一本 (進駐軍ノ兵士ヨリ求ム) 呉レタ。tropical と銘打ツ。実ニ上品ナモノダ。甘サガクドクナク極メテ風味ガ高イ。夕食ニ昨夕ノ新巻ガ出ル。美味ダ。

十月十四日 (日)

午前中、月寒[㊦]ニ出掛ケル。バス故障ノタメ細雨ノ中ヲ歩ム。[㊦]デハ近隣ノ商人ガ来リ居リ、時勢ニ憤慨シテ熱弁ヲ揮フ。月寒[㊦]デモ今、米一俵千五百円、東京[㊦]デハ三俵一万円

トカ。午後、堀越君来宅。大キイ新巻持参。成田ハ近イ内ニ十勝幕別ノ工場長ニ榮転ノ由。併シ未ダ本人ノ耳ニハ入レテナイト。自分モ嬉シク思ツタ。夕方、本庄登志彦君来宅。南瓜、薯ヲ出ス。昨日カラ予科生ノ腰ノ手拭ハ禁止トナツタト。又、寮ハ食物不足ノ理由ノ下ニ当局デハ一時解散ノ意思ダト。寮生ハ存続希望トノコト。色紙（転禍為福）ヲ与ヘタ。十月十五日（月）

発信　○塩見六郎氏（（ハ））

十月十六日（火）

十月十七日（水）

午後、月寒^天及伊藤肉店デ野菜ト桜肉ヲ求ム。桜肉ハ前回マデ百目二円二十銭（其少シ前ハ一円八十銭）デアッタガ、今度ハ二円五十銭ニナツテキタニ一寸驚ク。夕方七時頃、越山氏来宅。媒酌ヲ今総長御両所ニ頼ムコトニ同意シタ。友孝君、道庁内ノ終戦連絡事務所ニ勤務スルコトニ略ボ内定ノ由。小豆ニ南瓜煮込ヲ出ス。余程甘カッタ様子ニ見エタ。

十月十八日（木）

朝、琴似ノ山田方ニ薯受取ニ出掛ケル。モト子¹⁶⁶⁾、既ニ退院シタカト思ツタラ、尚ホ数日カカルトノコト。姉上様、全快ノ模様。掃除ヲシテキラレタ。南瓜大皿ニツ分ト砂糖タップリノ紅茶、コーンフレークヲ飴デコネタモノ、キャベシト大根ト交ゼタ漬物。超満腹デ今日ハ昼食ヲ抜キニシタ。朝、越山方ヨリ秘密ノ米国新聞（十六頁）借り来ル。

十月十九日（金）

一中創立五十周年記念式

吉田元利氏、本日逝去。九十三才。明四、会津ヨリ渡道。八十三才、引退マデ本道教育界ニ尽ス

一札在学生千二百名、全校卒業生（特別卒業ヲ含ム）総数六千九百名

今日式場デ厚別ノ敬一¹⁶⁷⁾ノ顔ガ見ユ

朝、越山氏ニ米国新聞（進駐軍ヨリ友孝君借用）ヲ返シニ行ク。随分、我ガ皇室ノ尊嚴ヲ損スル様ナ漫画ヤ記事ガ出テキルノニ驚ク。午前九時カラー中ノ記念式ニ出席。今日ハ気温高シ。終日細雨ガ降ツタリ止ンダリ。勤続職員ニ感謝状（杉野目¹⁶⁸⁾父兄会長ヨリ贈呈）ヲ贈ル。式終リテ全校出身戦没者慰霊祭々式ニ移ル。奥田同窓会長ノ祭文朗読アッタ。記念式場デハ山田¹⁶⁹⁾（幸太郎）旧校長ヤ江原¹⁷⁰⁾庁立高女校長ノ祝詞ガアッタ。江原氏ノ演説ハ音声ヤ言葉ガ良カッタ。今日ノ出席者中ニハ山田勝伴¹⁷¹⁾、福山全窓会副会長及福山（甚）父兄会副会長、土屋四郎¹⁷²⁾氏、岡上氏、相沢氏、土居通次¹⁷³⁾氏、植田氏、錦戸氏、村川氏、戸津先生等。最後ニ供物ガ配ラレタ。落雁三ツ。見事ナモノ。学校カラノ帰途、ヤマト有限ヨリ玉葱一俵ノ中リユックニーパイト風呂敷ト二分ケテ携ヘ帰ル。

十月二十日（土）

発信　○北海道配電会社（（ハ））

毎日新聞、久振りニ今朝ヨリ配達

学生大会（中央講堂）

今朝ヨリ東京新聞配達サレル様ニナツタ。自宅デハ今度ハ朝日ヲ申込ンデキタガ余部ガナイト毎日新聞ガ配達サレタ (明日モ然リデアツタ)。午後、農経復員学生 (暫定時ニ二年級ニ編入) 三人 (崎浦¹⁷⁴⁾、藤原¹⁷⁵⁾、高橋¹⁷⁶⁾)、授業ノコトデ来室、懇談スル。昨今両日、都合三回、ヤマト有限会社カラ玉葱ヲ家ニ運ブ。

十月二十一日 (日)

旭堂電気廻リ店ニ電話。電気ストーブヲ尋ネル。来月中旬頃入品スベント妻女ラシキ人ノ返事

午前中、街上馬糞拾ヒト草刈集ヲ夫々二、三回ヤル。堆肥舎ハ大体一杯ニナツタ。昼頃、勝美君来宅。去ル十八日、自分ノ運ンダ薯ノ残りト、モト子様全快祝トシテノ薯二貫目トヲ持参。函館ノ柳田利雄¹⁷⁷⁾ 氏ノ紹介状持参ノ全人甥林昌光君来宅。清水市高等商船学校二年ヨリ北大予科ニ転学希望ニ付、尽力頼ムトノコト。岩瀬予科教務部長ニ電話掛ケタガ矢張り高等商船カラハ受入レスコトニナツテキルトノコト。尚、北大ノ三専門部共受入レストノコト。次イデ突然、盛岡ノ石田晋君来室。出所シタトノコトニビックリ (本月十日)。警察、未決合セ十ヶ月目ニ出タト。二年 (或ハ一年半) ノ刑期。但シ三年間執行猶予ヲ宣告サレタ由。全君ハ不思議ニモ以前ヨリモ肥エタ。入所中、百冊許リノ本ヲ読ンダトイフコト昨日、大学ヨリヒメンコウ三疋 (単位六十銭) 配給サル。甚ダ美味。

十月二十二日 (月)

昼前、農林省ノ山尾君 (参謀本部ニ二年勤務、現地自給ノ指導) 及休職中ノ村木¹⁷⁸⁾ 君 (二年間農林省ヨリ罷ル)、殆ド全時ニ来室。山尾君ヨリ、台湾総督府ノ鈴木進一郎¹⁷⁹⁾ 君、全庁地下壕ヨリ出ガシラニ爆死サレタト。実ニ惜シイコトヲシタモノダ。昼、食堂ニ教授ノ集リ (上原、松田君ト三人) ヲ開キ、聴講生出願ニ対シ相談。

十月二十三日 (火)

昼前ニ教室カラ回覧ガ来リ増築畠ノ小豆ト燕麦 (何モ刈取ズニ) トヲ各自現場カラ持ち帰ッテ呉レトアリ。北ノ畑ニ出掛、南君ガ一人先着シテキタ。小豆ノサヤヲ風呂敷ト紙袋ニ一杯ツメタ。午后ノ農政講義ニハ化学ノ学生ハ一人モ顔ヲ出サヌ。前回ニハ化学生 (数名) 許リ出席シタノニ、今日ハ全欠トハ、自分トシテ不快ナコトダ。斎藤敬三¹⁸⁰⁾ 君ト廊下ニブツカッタ。

十月二十四日 (水)

田中外三郎ノ履歴書ヲ事務所ニ提出

島田ノ娘、理学部ヘ辞表提出ノ由告ゲン来宅

久振りニ水曜会開カル㊦。出席率八十六%

午前中、興農公社秘書課ヘバター取りニ出掛、今回又モヤー封度八円八十銭ニ引上。佐藤専務不在ノタメ収二郎君宜敷頼ム旨、名刺ニ書込ンデ届ケサセタ。㊦デ始メテ水曜会開。加藤君ノ道内石炭事情、大野君ノ上京談アリ。食事ハ良カッタ。東道新社長、重役落選トナツタ由、永田君カラ須貝生ノ農経聴講志望ニ付宜敷頼ム旨話サル。夕方、益子ト澄子ト二人、佐藤方ニ行キ、ハンダ五本ト引換ニ南瓜十数個持ち帰ル。

十月二十五日（木）

発信　○駒井徳三¹⁸¹⁾氏（(ハ)）

全学会解散

慰労宴

朝、縁側ニ立テバ野菜ノ葉上ニ白雪ガ薄クカ、ッテキルノニ驚ク。間モナクトケタ

二十五日朝、東屯田拓銀支店脇ノ電業所ニ至リ軒灯取付料三十円七十五銭納ム

農業会ニ電話（人事課中村氏）シタラ、北田、久田（拓殖協会）、山本政民、外崎¹⁸²⁾四人、体格検査共全部合格。外ニ生物ノ山本隆司君モ全様ノ由。但シ松井¹⁸³⁾ハ作文不良ノタメ不合格（作文題ハ平和日本ノ建設トカイフ）。午后四時カラ道場脇ノ豊平館食堂デ全学会解散トソノ後ニ生ルベキ学友会（仮称）ノコトデ職員側幹部ト学生ト集マリ懇談。了ッテ食事ニ移ル。豚汁、フライフキッシュ、牛肉ト薯サラダ、玄米飯、ソシテ乾パン一袋出ヅ。高松¹⁸⁴⁾学生部長ヤ大野¹⁸⁵⁾総務部長ノ話ガ会議中ニアッタ。飛行機、献納金ノ処置ニツキ議論ニ花咲ク。

十月二十六日（金）

一時カラ復員学生（六名）ト経済職員側ノ懇談会ヲ開ク。三時半ヨリ教授会

朝、南十四条停留所ノトコロデ黒澤西藏¹⁸⁶⁾氏（興農公社々長）ニブツカル。昨日、同氏令嬢（澄子ノ友達セツ子様）ノ結婚式ガアッタノデ、恐ラクソレニ出席ノ上、停留所脇ノ別宅ニ宿ッタモノラシイ。電車ノ中デ収二郎君ノコトヲ依頼シタラ、来月二、三日頃、本人ニ面会シタイトイヒ出サレタノニ、自分モ嬉シカッタ。朝、大久保方デ野菜ヲ求メル。

十月二十七日（土）

総長改選

一時カラ連合軍側ニ要請スベキ図書雑誌ノコトデ助手以上ノ集リヲ開キ、主トシテ雑誌ノバックナンバーノ相談ヲスル。一時半カラ総長選挙会開カル。新任庶務課長 蒲^{〔録か〕}田事務官ガ主トシテ奔走。第一次推薦ノ結果ハ、伊藤（五四）、三宅¹⁸⁷⁾（四一）、小熊（二一）、今（一七）、吉町¹⁸⁸⁾、田所（一五同点）、以上五位迄ノ高点者ダ（三人連記ノ結果）。即チ過半数ヲ得タモノガナカッタノデ、第一次選挙ニ移ッタガ、其結果九十九票（有権者ハ一一一人）中、伊藤農学部長ハ五六票ヲ得テ当選。ソノ場デ受諾、直チニ簡単ナ挨拶ヲ述ブ。第二次開票ハ壇上デヤッタガ立会人ハ総長及各部長、研究所長（総長外六名、小熊氏ハ両所長ヲ兼ヌ）デアッタガ、後ニ至ルニ随ヒ、伊藤君ノ顔ニホ、エミガ現ハレタノデ決ッタナト自分ハ思ッタ。顔色ノ変化デ様子ガ分ルト自分ガイヒ出シタラ、周囲ノ人々ガ笑ヒ出シタ。自分ノ着席番号ハ50番ダ。田所、有馬¹⁸⁹⁾、大賀、小林、松田、浅見¹⁹⁰⁾君等ガ隣ヒ合ッテ着席。

十月二十八日（日）

快晴

朝、大久保方ニ行キ体菜ヤニンジンヲ頼ンデ置ク。ソレカラ南一条西十五、六丁目ノ㊦佐藤桶屋ニ寄リタラヒヲ頼ム。来月中旬頃ハ良カラウトノコト。昼前、色部誠(弟)君来宅。

チブスデ二ヶ月許り病臥シテキタト。マダヤツレテキタ。午后、薯ヲ五ツノ穴ニ埋メル。夕方近ク、昭十八年十月経済入学ノ畑井¹⁹¹⁾君来宅。明日帰省(大坂)ノ由。去月下旬来四、五回旅館ヲ取りカヘタ由。

十月二十九日(月)

発信 ○田中享蔵¹⁹²⁾氏((ハ))

○成田収二郎氏((ハ))

昼近ク、興農公社ニ行キ約束ノバター二封度ノ所ヲ山田秘書課長ニ頼ンデ三封度ニシテ貰ッタ。ソレカラ佐藤専務ヲ訪ネ収二郎君ノ話ヲスル。開拓公社ノコト、先日ノ社長ノ話ト一致シテ愉快ニ思ッタ。

十月三十日(火)

自分ノ留守宅ニ井上善十郎¹⁹³⁾氏令室、初メテ来訪。令息ノ経済入学ノお礼ニ来ラレタ訳。荒巻大形。高崎(水島女史ト全期)出身トハ思ハレヌ程ノ率直ナ仁デアッタト。其ノ話ニヨレバ令息ノ転科ニ付テハ伊藤学部長ハ断念セヨトイハレタト。然レバ自分ノ勇断ニ一層感謝シタデアラウ。井上泰男¹⁹⁴⁾君、今日ノ自分ノ農史ノ時間ニ出席シテキタ。

十月三十一日(水)

昨日、配達ノ演習林ノ薪(三百本)ヲ積ミ重ネル。折角ノ途中デ一部分崩レテガツカリ。水曜会ニハ苦米地¹⁹⁵⁾校長ノ民主々義ニ関スル話アリ。昨日若林¹⁹⁶⁾氏来室、民主主義ニ関スル著書ハナйкаトノ尋ネデアッタガ、其場デハ一寸探リ得ナカッタノテ、今日漸ク、平林¹⁹⁷⁾氏ノ「自由主義発達史」ヲ見付ケ宅ニ届ケタラ、^[叔]伯母様丈居ラレタ。夕方、帰宅シタラ自分ノ不在中ニ越山氏夫人、文哉君ト共ニ来宅サレタ由。南一西一七ノ借家ハ当分明キサウモナイノデ、新夫婦ハ自宅ニ暫ク頼ムトノコト。文哉君モ賛成トノコト。夕方、大久保方ニ行キ「ニンジン」五貫目求メル。

十一月一日(木)

学部長後任ニハ農学島教授当選

今晚七時半頃、越山氏夫妻来宅。結婚日取り来ル十二月十二日ト決メタ。コレハ益子ノ主張ガ通ッタ訳。又、媒妁人ニ付テハ今度ハ先方デハ宮脇氏兩人トノ考ヘデアッタガ、自分ハ最初通り今様夫妻ニ頼ンダラトイヒ出シ、ソレニ決ッタ。又、式場ハ札幌神社トシタ。披露宴会場ハ多分泉ニナルラシイ。

十一月二日(金)

午后、清水工業専務ノ清水幸一氏来室。沓沢君聴講生採用ニツキお礼ノ言葉ノタメ来ラレタノダ。夕方、大久保氏ノ体業畑ニ行キ体業ヲ十三貫三百目求メ半分丈自分ガ背ト両手ニ提ゲ帰ル。残リハ畠ニ置イタ。

十一月三日(土)

午前中、月寒¹⁹⁸⁾ニ行ク。朝早ク益子ト二人デ昨日ノ体業ノ残リヲ畠カラ運ブ。午后、桑園ノ遠藤店ニ出掛ケヨウトスル矢先、成田収二郎君来遊。本日午前、黒澤社長ニ会ヒ昨日ハ佐藤専務ニ逢ッタ話ヲスル。両三日中ニ返事スル由、社長ガイハレタト。大形ノ南瓜二ヶ

（江別産）持参。早速夕食ニ煮ル。甘味多シ。収二郎氏ニ島教授学部長当選ノ話ヲシタラ、自分ニ向ヒ自分ガ何故当選シナカッタカト訝カル。自分ニソレ程ノ期待ヲ掛ケテキタトハキマリ悪シ。

十一月四日（日）

十一月五日（月）

十一月六日（火）

越山氏カラ電話来リ益子ガ聞イタ所デハ、昨日、今総長ニ媒酌人ノコト願シタラ快諾サレタ由。コレデ安心。昼過、福島県某村村農業会専務理事某氏来室。農政問題ニ付話ス。牛乳ヲ暖メテ出ス。午後一時ヨリ経済食堂会開キ、学科目名称改正ノ件相談ス。

十一月七日（水）

発信　○有路政保¹⁹⁸⁾氏（(テ)）

○喜多克己¹⁹⁹⁾氏（(テ)）

十一月八日（木）

発信　○村木設氏（(ハ)）

十一月十一日（日）

発信　○北海道配電（(ハ)）

朝早く、リーヤカー借用ノタメ農学部本館ニ出掛ケ地下室ヨリ借り出ス。南君ガ丁度ソコニ居リ手伝ッテ貰ッテ屋外ニ出ス。家カラ木炭一俵積込ミ益子ト共ニ琴似山田方ニ向フ。途中少雨ニ逢フ。一時間半位デ山田家着。姉上ハジメ山田様、勝美君モ在宅。ハットケーキノ馳走ニナル。美味。ソレニ甘味タップリノ紅茶。帰リニハ南瓜（先日ノ残り）、キャベシ、ニンジンヲウケル。時々雨ニ打タレル。夕方近ク玄関先デフクロクストーブライジッテキタトコロニ、文哉君来宅。座敷ニ案内。上部ニ二段付ノマキストーブヲ珍ラシガル。披露宴ハ三井クラブニ決ッタ由。ソシテ文哉君ハ清酒ヲ小樽方面（？）デ入手ノ責任ヲ分ケ与ヘラレ成功ノ積リトノコト。ハットケーキ、小豆入ノ南瓜ヲ出ス。

十一月十二日（月）

朝、自分デハ例ノ「フクロク」ヲリーヤカーニツケテ塩見君宅ニ運ブ。手伝人ガ出テ来テ運ビ入レテ呉レル。十二、三貫位ノ目方ラシ。塩見君、感冒カラ胃腸ヲ痛メタトテ一寸顔色悪シ。今後用心スベキ体質カト危ブマレル。

十一月十三日（火）

昼前、農業会ニ東専務ヲ訪ネ、村木君ヨリ自分宛ノ手紙（健康ノコトヲ述ブ）ヲ示ス。ソコニ葉袋²⁰⁰⁾君ト会フ。青木金融部副部長ヤ宮本理事ニモ一寸挨拶スル。一次ニ味噌（尙）ト薯ヲ頼ム。帰リニ二階ノ人事課ニ中村氏ヲ訪ネ松井君ト山本隆司君ノコトヲ頼ム。笠島課長ハ今日マタ札幌病院デ手術スルト（腎臓？）。昼、食堂デ増産畑ノ南瓜、ビート、薯ガ出ル。南瓜ハ小形デ軟カクビリ〜シタモノダガ案外食ベラレル。ソレ終ッテ法経会ノ例会ニ移リ、松田君ノ「今次大戦後ノ北海道農業構造ノ変化」ニ関スル報告アリ。自分ハ一時半カラノ講義ノタメ中座。

十一月十四日 (水)

発信 ○高柳貫一氏 ((テ) 澄子結婚日取決定通知)

午前中、因ニ行キ「リュック」ノマ、㊦ノ水曜会ニ出席。北海道水産統制会社(?)ノイヌキ社長ノ水産談アリ。別ニ新味ガナク面白カラズ。会カラ一旦帰宅シ、ソレカラ登校シヨウトシタラ、予科ノ本庄君ガ丁度来宅シタ許リノトコロ。恵迪寮ガ来春二月ニ主トシテ食糧事情ノタメ閉寮スル予定ナノデ下宿ヲ捜シテ呉レトノコト。ホミニ²⁰¹⁾ヲ出ス。辞去ノ際、足許ガヒョロヒョロシテ見エル。

十一月十五日 (木)

新設講座理由書ヲ事務所ニ出ス

農業経済学科、学科科目変更(講座名変更共五項目)及講座新設(第一順位農史講座)ニ関スル申請書ヲ事務所ニ出ス。朝ト午後二回、狸小路(移転先)ノ旭堂ニ寄り電気ストーブヲ交渉。帰りニソレヲ手ニ下ゲ歩イテ帰宅。古物百円トハ驚ク。

十一月十六日 (金)

十六日

今日ノ新聞ニヨレバ去ル十四日九大総長候補選挙ニ於テ奥田譲²⁰²⁾博士当選ノ由(前総長ハ百武²⁰³⁾中将)。実ハ前日ノラジオデモ後任者ノ人名ガ出テキタガ、マサカ奥田君トハ思ヒモ及バナカッタノダ。

朝、歩イテ南三西ハノ内藤電気工業所ニ立寄り電気ストーヴ取付ヲ依頼。ソレヨリ南二条ノ古道具屋ニカマダノロストルヲ求メタガ、案ノ通り見当ラヌ。渡邊教授提出ノ新講座(農業会計学)新設理由書ヲ事務所ニ廻ス。随分不徹底ナ書振ト思ヘル。午后早速、内藤電気工業所カラ工員ガ取付場所ヲ見ニ来ル。工事費約百七、八十円位ナラントノコトニビックリシタ。益子ト共ニユーウツニナッタ。

十一月十七日 (土)

月寒伊藤肉店ニ牛肉一貫五百目注文

島田日出夫君ヨリ荒又君ヘノ電報ニヨレバ農業会デ二十四日銓衡ニ付、優秀者一人推薦セヨトノコト。高橋暢君ニ今晚来宅スル様全窓ニ頼ンデ置イタ。

農政学講義(バターフキールト²⁰⁴⁾著書訳)ニハプロパ三、四人出席。経済学生一人モキナイノハ物淋シイ。一寸不快ナ感じガスル。午前中、内藤電気ニ電話シタラ主人ガ出テ来テ二百五十ワットナラ工事費二百円ダガ五百ワット(現在旭堂ニアルノハ五百デ、自宅ニ求メ来ッタノハ二百五十ダトイフ)ナラ二百九十円トノコト。二百九十円ニハ驚ク。午后、月寒ヘノ途中、旭堂ニ行キ確メタ所、電気ストーヴハ両方共五百ワットダガ二百円ノ分デ大丈夫ト主人ガイフノテ安心。

十一月十八日 (日)

発信 ○高山ゆき氏 ((テ))

益子ノ赤十字社終身正社員ノ標札ヲカケル

澄子、午前中カラ越山方ニ遊ビニ行ク。昼食ノ馳走(カボ)ニナッタ由

朝、内藤電気工業所ニ寄ッたら丁度戸ヲタクル所、所長ニ会ヒ電気コンロ取付ノ費用ヤ期日ヲ確メル。二百円トノコト。一週間カ十日カ、ル由。ソレヨリ南一西十一ノ古道具屋デカマダストーヴノロストルヲ尋ネタガ無イ。太華堂デ奉書紙ガ見付カリ嬉シカッタ。ソレヨリ斉藤桶屋カラタラヒ（サワラ製）ヲ受取り帰ル。益子、澄子共喜ブコト大。立派過ギル程ノモノダ。昼一寸過ギニ大久保氏附近（北方）ノ農家ニ念ノタメ野菜ヲ尋ネ廻ッたガ二軒共ナシ。同氏ノ隣リニ寄ッた所、大久保氏カト驚イタ程ヨク似タ顔ノ人ガ食事中。聞ケバ兄弟ノ由。隣リノコトヲ本家トイフ。見レバ標札モ大久保トアル。ソレカラ大久保方ニ寄り、玉ノ余リマカヌキャベジデモヨイカラトネダリ二貫六百求メタ。帰ッて庭ニ浅ク埋メル。ソレカラ遠藤店ニ醬油買ヒニ出掛ケル。澄子、夕方、越山家ト茶湯先カラ帰宅。越山ノ奥様カラ披露宴ニ米カ肉カ半分調達ガ自分ノ方ニ出来ヌカト尋ネラレタトノコトニ自分モ益子ト共ニ頭ヲ悩マス。米ハ絶望ダガ肉ハト思ヒ、益子ノ提案デ先ヅ金澤肉店ニ電話シタラ半年前ニ廃業。

十一月十九日（月）

発信　○内藤電気工業所（（ハ））

夕刻、越山氏奥様²⁰⁵ 来宅。結婚式場ヲ札幌神社ヨリ三吉神社へ、披露場ヲ三井クラブヨリ狸小路博品館跡の G ホテル食堂ニ変更ノ由話サル。

十一月二十日（火）

本日ヨリ青物、魚類ガ統制撤廃、自由販売ニヨル。

十一月二十一日（水）

今晚、ラジオハ天皇制ニ関スル三氏ノ意見ガ述べラレタ。清瀬²⁰⁶、牧野²⁰⁷、徳田²⁰⁸三氏ダ。徳田氏ノ反対ハ随分過激

朝、大久保氏方デビート六貫目ト薯五貫目求メタ。薯ノ方ハ主人ノ帰宅前ニ老母ト妻君ガ内密ニ分譲シテ呉レタモノ。水曜会デハ北海道終戦連絡事務所長石井公使ノ全事業ニ関スル話アリ。二時四十分ニ教室ヨリリーヤカーヲ曳イテ元村ニ向フ。大爺²⁰⁹ 君方ニ行キ玉葱一俵求メ帰ル。往復三時間。相当ノ雨ニ打タル。

十一月二十二日（木）

野間君学論審査要旨、上原君ヨリ廻サル

午後一時半ヨリ教室主任会議（教授会議室）開カル。共通学科増設ガ主題トナル。島教授、委員長トナル。興農公社ノ秘書課ニ電話。山田女ガ出テ来タ。「バター三封度」ハ来ル二十七日ニ分譲トノコト。主任会議ニ出掛ケル直前、上原教授来室。野間君ノ学位論文審査要旨（原稿）ヲ示サル。

十一月二十三日（金）

朝、博品館ノ模様替ノ現場ニ行キ竣工期日ヲ尋ネル。ソレカラ石川県物産館カラ益子ニ電話カケル。ソレカラ又ニ出掛ケル。昨二十二日カラ主要食糧品ノ買出取締ガ始ッテキタノデ、野菜モ一寸心配シタガ何デモナカッタ。但シ、往キガケニ豊平駅脇デー警官ガ馬車ヲ止メテ一寸荷物ヲ問ヒ質シテキタ。午前中、益子、越山氏方ヲ訪ネ披露会場ノコトヲ尋ネ

ル。

十一月二十四日 (土)

自宅ニ琴似伊藤²¹⁰⁾ 夫人ヤ越山夫人ヤ林善茂君来ラレタ由

専門部事務所ニ中村氏ニ電話カケ、保彦ノ消息ヲ尋ネタラ、多分、樺太ニ帰ッタラウトノコトニー安心

理学部吉田書記ニ澄子ノ俸給支払ノ件ニ付電話カケル。近キ内ニトノ返事

昨日、学校カラノ帰りニ旭堂カラ電気ストーヴ (瓦斯用ヲ改造) ヲ携ヘ歩イテ帰ル。中々重カッタ。今朝、旭堂ニ先日求メタ円形電気ストーヴヲ返シ差金五十円ヲ支払フ。学校ヨリ公社佐藤貢専務ニ電話シ来月ノ婚儀ニチーズ三封度、バター二封度頼ンデ快諾ヲ得タ。帰途、収久衛君宅ニ立寄り収二郎君ニ開拓協会採用内定ヲ知ラセル。全君ノ肋膜デ意氣消沈。数日前、静子女兒出産トノコト。伊藤里子サンカラハ澄子ノ祝儀 (十円) 外ニゴボー、ホーレンソウ、長芋等持参。林君カラハ余市デ求メタ美事ナ林檎 (四十九号) ヲ受ケル。越山夫人ノ話ニヨレバ式場ヲ三井クラブカ博品館 (若クハいづみ) ノ何レカニ今日中ニ決メルトノコト。越山家デハ毎月米一俵ヲ費シツ、アリトハ豪氣ナモノ。近来一俵千五百五十円トカ。

十一月二十五日 (日)

朝、越山家ニ和服ニテ出掛ケル。先方御兩人ト披露宴ノ相談スル。文哉君モ後デ出テ来ル。二時間モ話シタ。午后、文哉君来宅。ソノ内ニ勝美ちゃんモ来宅。皆ンナト一緒ニ談笑スル。文哉君モ二時間許リ居タ。

十一月二十六日 (月)

十一月二十七日 (火)

[前略] 翌二十八日渡辺君ガ会合ノタメ来室スル [中略]。二十七日ノ晩迄ニ結婚披露状ヲ書キ終リ、二十八日発送シタ許リダ²¹¹⁾。渡辺君ニ澄子結婚決定ノコトヲ話ス。

十一月二十八日 (水)

発信 結婚披露宴案内状 (手紙) ○上原轍三郎

○渡辺侃氏

○若林功氏

○山田勝伴氏

○河西一次氏

○高柳貫一氏

○伊藤里氏

○成田藤太郎²¹²⁾ 氏

○成田収久衛氏

以上九本

野間君学論審査要旨ヲ上原君ニ返シ、又、佐藤君 William ノ論文ヲ小林君ニ廻ス。小林君ハソレヲ学論ニスルトイッタ様ナ希望ハ本人カラ未ダ聞イタ覚エガナイトイフ

水曜会総会、次期会長ニ阿久津氏、副会長ニ藪²¹³⁾氏推薦

二時半カラ自室デ経済ノ教授丈ケノ集リヲ開キ、昨日ノ教授会ノ懸案タル獣医二年ヨリ経済一年ヘノ転科志望者（三名）ノ許否ニツキ相談。結局、強硬論者小林君モ軟化。今回ハ転科ヲ認メルコトニ決メタ。次ニ矢島君ノ助教授推薦ハ取止メ、ソノ代リニ助手トシテ推薦ニ決ス。外ニ当教室ヨリハ誰モ助教授ニ推サヌコトニシタ。

十一月二十九日（木）

午後、道新記者林氏（東大政治科出）来室。土地制度問題ニツキ自分ノ意見ヲ聴キニ来タトノコト。時間ナク余リソノ方ノコトハ述ベズ、論文三種与ヘタ。樺太生レ。祖父ハ深川トカノ屯田兵トノコト。

転科承認済ミノコトヲ経済助教授連ニ知ラセル。伊藤学部長及島新部長ニモソノ後、上ノコトヲ報告スル。島教授ノ室デ各学科ニ於ケル諸学科共通ノ学科目新設ノ経過ヲ聞カサレ、経済ノ方ハドウカト聞カレル。農業経済学通論トシテ経済、経営、農政ヲ週四時間宛、又ハ五時間宛位ニシテハトノ話ガ出ル。帰ッテカラ渡辺、松田両君ニ相談シタガ、松田君ノ不満ラシイ態度ニ一寸意外ノ感ガスル。生物（昆虫）新卒、北海道農業会受験ノ山本隆司君来室。肥満且ツ血氣ヨク堂々タル偉丈夫デ、ソノ上老々シク見エル。レントゲンノコトヲ能ク聞キ取ッテ置イタ。農政演習ハ自室デヤル。演習中ニ獣医ノ黒沢²¹⁴⁾教授カラ電話来リ転科承認ニ対シ礼言ヲ述ベラル。余程嬉シカッタ様ナ口振り。

十一月三十日（金）

獣医ヨリ転科ノ三学生、本日ノ農史時間ニ皆顔ヲ揃ヘル。早速出席トハ感心
昼過、園芸ノ沢田²¹⁵⁾助教授室ヲ訪ネ紅玉百許リ分譲方頼ンダトコロ、ソレハ多過ルトノコトニ其半分デモト頼ンダラ、高級ノ Golden delicious ニシテハトノ返事ニ、一層有難カッタ。帰途、農業会ニ立寄ッタガ、今日モ東専務モ葦野課長何レモ不在。人事課ニ太田氏ヲ訪ネ、山本君ノレントゲンヲ尋ネシニ未ダ出来ヌト。又、新規採用ノ第二次ハ沙汰止ミノ模様。今迄暫ラク断念シテ居タ食用百合ガ突然松屋ヨリ届ケ来ッタトノコト。一箱百五十円。即座ニ益子ガ支払ッタト。午後、理学部ノ中島²¹⁶⁾書記カラ電話来リ、澄子ノ飛行機献金払ヒ戻シニナッタト。間モナク五円届ケ来ル。転科学生二人連レ立ッテ挨拶ニ来室。齊藤君ハ既ニ昨日来室。

十二月一日（土）

発信　○月寒伊藤肉店（(ハ)）

今先生奥様祝儀ヲ持参（夕刻近ク）

本日総長更迭ノ辞令道新ニ出ヅ。九大奥田総長ノ辞令モ全時ニ出ヅ。島新学部長ノ辞令モ全時ニ出ヅ

本日、学位記ヲ今総長ヨリ受領シタ由、松田教授来室、礼言述ベラル。自分モ之レデホツトシタ。第二農場金木²¹⁷⁾氏ニ電話カケ牛乳一升五合。来ル十二日用トシテ依頼快諾ヲ得。又、公社ニ電話シタラ前回ノ残り三封度、今日デモヨイトノ返事ニ受取りニ出掛ケル。夕刻、中島広吉²¹⁸⁾君ニ電話カケ、共通学科新設ノコトヲ尋ネル。

十二月二日 (日)

発信 ○浅谷矩久氏 ((テ))

○佐藤貢氏 ((ハ))

晩、文哉君来遊

橋本製粉所ニ立寄ル。蕎麦二番粉ハ貫十円カソレ以上ノ価値アルベシト当方ヨリイヒ出ス。モーターガ動キ出セバ年内ニ幾等カノ種類ノ穀粉ハ出ルデアラウトノ返事ニ多少樂觀気分ガスル。月寒ニ行キ伊藤肉店ニ先キニ寄ル。表口ハ開店前ノタメ戸締リガシテアルノデ裏口ニ廻ル。主人ニ先日ノ依頼斤数ノ二倍ノ三貫目ヲ頼ンダガニベナク断ラレタ。脇ノ人ガ自分ニ加勢シテ呉レタガ中々軟化セヌ。併シ2貫目ハ分ケテ呉レサウダ。併シ冷凍肉デ入店シ店デトカストノコトニ、一寸困ツタ。ソレカラ又ニ行ツタガ、妻君ハ味噌ノ配給最中デ平常ニ似合ハズ無愛想ダ。主人ニ頼ミ大形キャベシ2ツ求メル。

十二月三日 (月)

発信 ○成田収久衛氏 ((ハ))

高岡先生ニ公社ノバター半封度ヲ差上グ

内藤電気工業所カラ工員二人ガ来リ工事ヲヤル。一人ハ江別ヨリ通勤。白飯ヲ弁当函一杯ニツメ込ンダノヲ隠ス気配アットノコト

午後、彰華堂出張所(南二条)デ弓絃²¹⁹⁾筆「太平楽」ヲ五十円デ求メル。益子モ澄子モ口ヲ揃ヘテ讃ヘル。モトヘ松田教授ニ博士祝ヒトシテ上ゲル積リデアッタガ余リ兩人ガ欲シガル様ダガ、家ニ留メ置クコトニシタ。夜、澄子ノお土産物(父、母、祖母、友孝、三畏²²⁰⁾、司²²¹⁾、友孝氏令室、文哉)ノ表書キヤ「タラヒ」「尺」ニ昭和二十年十二月吉日ナル文字ヲ書イテヤル。

十二月四日 (火)

東京ノ貫一様カラ祝詞ニ百円為替同封送リ来ル

一五〇円(電気ストーブ代)、六五円(改造費)、二〇〇円(内藤工事費)、計四一五円ガストーブニ関スル全費用ダ

朝、電気ストーヴヲ歩イテ旭堂ニ持ち行キ修理ヲ頼ミ、ソノ足デ内藤電気工業所ニ行キキロデモアノ工事デ大丈夫カト尋ネル。大丈夫トノ答ヘデ安心。午後、中野²²²⁾大学事務局局長来室。文部内務共同ノ公民教育講習会ノコトヲ依頼スル。丁度、一中小野²²³⁾教頭モ偶然全室。帰リニ旭堂デデンキストーブヲ受取り歩イテ帰ル(五百ワットヤーキロニ直ス)。夜、stoveヲ試シテ見タガ室全体ガ暖マル程ニハ中々ナラヌ。併シ来客ノ手足ヲ温メル位ニハナル。

十二月五日 (水)

新旧総長挨拶

朝、月寒ニ出掛ケル。途中、十五丁目カラ停電ニ付歩イテ薄野迄行ク。石川県物産館ニ一寸立寄ル。例ノ花瓶取ッテアツタ。六円位出セバ木箱モ出来ルダラウト。月寒伊藤肉店デ主人ニ例ノ牛肉ヲ確メタラ剣モホロロノ返事ニハ全クアツケニ取ラレタガ腰ヲ低クシネバ

ッテキタラトウへ承諾シタ。来ル十日午後、受取りニ行クコトニシタ。全店ニ知合ノ者ガタオルヲ贈物ニシテキタガ主人ハコレハ珍シイト喜ンデキタノヲ傍カラ眺メコレナル哉トウナツイタ。因デ「カブ」五貫目ト大形キャベシー箇求。荷物ヲ背負ッタママⓈノ水曜会ニ出席。札幌地方裁判所長ノお話ガアル。二時カラ雨天体操場デ新旧総長ノ挨拶ガアル由、真崎²²⁴⁾ 君カラ聞キ込ミ、一時半前ニ会場ヲ退キ大学ニ向フ。途中、予科デ水口講師ノ着任否哉ヲ質シタラ未ダトノコト。朝、豊平駅ノ電車中デ黒沢²²⁵⁾ 主計大尉ニ会フ。復員幹部トシテ札商内ノ事務所ニ出掛ケルトコロトノコト。明春三月頃迄勤務ヲ要スルダラウト。新旧総長（今、伊藤）ノ告别ノ辞並ニ就任ノ挨拶ハ会場係リノ注意ニヨリ一同オーバーノマ、聴ク。新総長ハ就任ノ辞ニ先立チ、旧総長ニ対シ謝辞ヲ述ベル。新任辞中ニ「神ガカリノ軍略」「大東亜戦以来当邦軍部ハ科学ヲ輕視」ナドノ言葉ガ一寸自分ノ耳ニ異様ニ響ク。退場シテ講堂に向フ途中、広吉教授ガ樺太ノ高山ノ安否ヲ自分ニ尋ネル。本館階段ノトコロデ高岡先生カラ、君ノ令嬢ノ病氣如何ト突然尋ネラレ不意ニ感ジタ。病氣ドコロカ近ク結婚スルトコロデスト答ヘタ。又モヤ澄子ニヘンナデマヲ飛バス者ガアルト見エル。林善茂君助手發令ノ辞令ガ事務所ヨリ来ル。飛行機献納金八十円返戻ヲ受ク。果樹園カラリンゴ（大部分ガ Golden delicious ダ、計八キロ）配給。今日、留守宅ニ成田^[叔] 伯母上、西辻令室、チャ子サン祝ヒニ来宅。成田様ハ若林様全様二十円。チャ子様ハ三十円ノ外、白米一升、百合ヲ包ミ来ル。ソノハリ込ンダノニハ一驚。

十二月六日（木）

昼少シ前、自分ハ益子ノ米配給貰ヒニ行ッタ後、留守番ヲシテキタトコロニ上原奥様が来訪。応接室デ二、三十分間話サル。祝儀（二十円）ヲ渡サル。電気ストーブ効目ヲ發揮。午后、昇校途中、橋本製粉所ニ寄り、ゴールデンデリシヤス（二十個位）ヲ与ヘル。先方デハ一寸辞退スル。今日ハ自分ハ一言モ粉ノコトハ口ニシナカッタ。午前中、Ⓢノ重役室カラ、昨日預ケテ置イタリュックト風呂敷包（何レモ野菜）ヲ受取ル。五貫目ノリュック（カブ）ハ中々重イ。午后、公社ニ行キチーズ三封度、バター五封度求ム。秘書課ニ出納氏（令弟）ヤ農業会葦野氏モ見エテ居タ。

十二月七日（金）

発信 ○高山立雄氏（(テ) 披露宴招待状）

○伊藤肉店（(ハ)）

益子、午后、越山方ニチーズ二封度、バター四封度持ち行ク

山下大将ニ死刑宣告。弁護士団米大審院ニ控訴

米軍法委員長レーノルヅ中将ハ七日、山下奉文大将戦争犯罪ニ対シ死刑（絞刑）ヲ宣告

昼、食堂ニ経済教授ノ集リヲ開ク。経済ヨリノ転学希望者（住所ノ事情ニヨリ東大農経ヘ転学志望ノ中村広次）ノ件ヤ学科目改正（専門外学生ニ対スル共通学科）ノコトナドヲ相談。林善茂君ニ助手ノ辞令ヲ渡ス。前田健二²²⁶⁾ 君来室。北海道農業会ニ就職希望。午前、昇校途中、農業会ニ立寄り一次ノ案内デ開拓協会ニ赴ク。成田収二郎君ヘノ出頭方通知状

ノコトヲ相談。登校シテ見タラソファノ上ニ美事ナ Golden delicious (五十九ヶ) ガ載^[セ]イテアル。沢田助教授カラ早速届ケラレタモノダ。親切ニハ感心。ソノ中デモ最モ立派ナモノ五ヶヲ選ビ、益子、隣宅田口様ニ贈ル。黒イベークライト盆ニ入レテ行ク。配合甚妙。夜、益子ハ澄子ト座敷ヲ整頓シ新家庭ノ居間ヲ作ル。㊦デ置物ヲ求。松田君ヘノ祝品ノ積リ。家デ開包シタガ益子モ澄子モコンナ安ッポイモノト初メ一寸馬鹿ニシタガ、暫クシタラ容器 (桐) ガ立派デ引立ツトイヒ出ス。

十二月八日 (土)

小林、高倉両君ニ対シ学位記下付相成リタル由、本部ヨリ学部ニ通知。学部ヨリ直チニ自分ニ通知

発信 ○高山保二氏 ((テ) 幸便ニ託ス)

矢島君ト話ス

羽田氏令室ニ電話シ、令息聴講生許可ノコトヲ知ラセル。主人不在

学位記ノ件ヲ図書館ニ行ッテキタ高倉君ニ電話デ知ラセ、又小林君ノ宅ニ知ラセニ行ク。ソレカラ帰室シタラ小林君ハ自室ニキタノデソレヲ知ラセル。非常ニ喜ブ。矢島君ニ初メ廊下デ出会ヒ一寸話シタガ、午後ユックリ来室。入所中ノ出来事ナド話シ合フ。帰宅后夕方近ク、松田君宅ヲ訪ネ祝品ヲ呈ス。玄関先デ辞去シタ。昨晚、高山 (豊原) 君宛ノ手紙ヲ書イタノヲ経済一年ノ斉藤君ニ託シ人ヲ介シテ届ケテ貰フコトニシタ。農学部ハ保温及食糧事情ノタメ来ル十七日 (月曜) カラ休業 (来年二月一杯) ノトコロ経済デハ講義ハ今日迄トシ来週月曜カラ休ミニシテ呉レト学生カラ頼マレ承認シタ。一週間早マツタ訳。非常世局下ノ学生ノ緊張振りノ足ラヌヲ遺憾トスル。

○大学ノ国民貯蓄中ヨリ2000円引出スベク本日付デ学部事務所ニ願書出ス。昨晚三人デ話合ッタ京都ノ反物買取ルタメダ。

十二月九日 (日)

発信 ○成田収二郎氏 ((ハ) 社宅宛)

越山氏夫妻、午後二時来宅。初メ奥様丈ケト思ッテキタラ兩人揃ヒデ意外デアッタ。

荷物目録ヲ呈シ、益子ハ奥様ニ一々荷物ノ点検 (十七品) ヲ願ッタ。披露宴ノ席順ノコトナド相談

朝早く、先頭第一ニ上原デ散髪。次イデ進駐軍ノ連中入来。互ニ顔ヲソリ合ッタリシテフザケテキル。ソレカラ石川産物館ニ到リ、数日前ヨリ保存依頼中ノ花瓶ヲ断ツタラ、昨日他ニ売ッタトノコト。帰宅シタラ一次ガ祝儀 (二十円ノ外ニ卸シタ鶏一羽) ヲ持参シテキタ。ソノ中ニ東弘²²⁷⁾ 君来宅。アスパラクリーム二本恵マル。厚顔マシクモアスパラ瓶詰十本程農業会ニ注文シテ置イタ。コノアスパラノコトハ一次カラ聞込シタモノダ。午前、都心ヨリノ帰途、側ノ橋本製粉所ニ寄ッタラ例ノ壮年者ガ出テ来テ、愛憎^[想]ヨク応対。三、四日中ニ機械運転ノ筈故、ソノ頃ハ何等カノ穀粉出来ルデアラウトノコトニ自分モ久振リニ朗カニナル。

十二月十日 (月)

浜チャン来宅

高倉君来宅

松方²²⁸⁾ 老公ノ軸物

午前九時過ヨリ自室ニ於テ上原、松田両教授参集。野間助教授提出学論ニ対スル審査要旨ノ原稿（上原主査執筆）ヲ皆デ吟味スル。本人ノ原著中ノ一節ノソノママノ引用ノトコロナドハ松田君ト自分ト一致削ルコトヲ勸メタ。ソレ終ラントスル矢先、委員会（教室主任）カラノ呼出催促ガ来タ。農林専門部宇留野²²⁹⁾ 生徒主事（本隊）ノ本職解消ニ付、学部ノ空員助教授ノ一席ヲ来年四月迄廻シテ如何ト島新学部長ノ意見（新学部長最初ノ主任会議ダ）ニ、結局、演習林ヨリ譲ルコトニ中島演習林長承諾。ソレカラ月寒伊藤肉店ニ行キ幾度トナク念ヲ押シテキタ牛肉一貫五百目ヲ受取ツタ。チャント包ンデアッタ。先ヅ先方カラ昨日来店ノ筈デナカッタカトイハレタノニハ又モヤー一寸ビクトシタ。併シ予定ノ冷凍肉デハナクリュウトシタ鲜肉デアリ、コレハ佳イ肉デスヨト太鼓判ヲ押シテ呉レタノハ嬉シカッタ。ソノ上、良イ鶏モアッタノデー羽求メタ。三十五円ダ。帰りニ一寸刃ニ立寄り馬鈴薯ノコトヲ尋ネタガ心当リノ農家ノ返事ヲ未ダ得ヌト。帰途、豊平駅附近ノ雨下店デトロロ昆布三百目求。大門ノ全名店ト親戚トノコト。十七丁目デ下車シ三井クラブヲ訪ネ牛肉1.5貫目ノ中500匁ヲ切ッテ貰ッテ置イテ来ル。越山家カラ3貫目運ブト思ツタノデ総計3.5メ目（コック河野氏ニヨレバ3貫五百デドウニカ足ル様ナ口吻故）ニスル計算デアッタ。帰宅シタラ浜チャン来着シテ居タ。ミイチャンヲ連レテ。実父カラ祝儀五〇円外ニ浜チャンノ妹連カラ銘々合セテ六〇円計百十円外ニ尚ホ昆布、ウニ、サメ卵、カレイ、アワビ、トロロコンブ等多数多量ノ物ヲ貰フ。夕方、食事時ニ高倉君学位記下附ノお札ニ来宅。応接室ニ案内シタガ、電気ストーヴガ寒サノタメ利カズ閉口。松方老公ノ書ト青豌豆ヲ恵マル。

十二月十一日（火）

朝薄雪積ンデキル

入浴料改正、今日ヨリ実施。大人四〇銭、小人二五（今迄十二銭対八銭）

朝、月寒ノ伊藤肉店ニ出掛ケル。四丁目に電車待ツ間ノカラッ風ノ寒イニハ驚ク。車中デ進駐兵ノ一人ニ It's very cold ト問ヒカケタラ自分ノ温カサウナ手袋ヲ見セテ否定ノ様子ヲスル。次ニ Colder than New York? ト尋ネルト No ト大声ニ返事スル。伊藤店ノ裏口カラ這入り、先ヅ利尻ノダシ昆布ヲ出シタラ、主人大イニ感謝。昨日ニ続キ今日モカシワー羽（三十五円）求メル。リュックノママ登校。牛乳カン（一升五合入）ヲサゲテ三井クラブニ河野氏ニ手渡ス。魚菜其他全部越山家カラ納入済ミノ由。コレデ自分モ安心。帰宅シテ中食后、再ビ町ニ出テ拓銀カラ一度ニ七百円引出シ、ソレカラ農業会ニ生部^{【生活部か】} 長次長東弘君ヲ訪ネル。外崎、北田両君ヲ東君呼ビ寄セル。二、三日前頼ンデ置イタアスパラビン詰ノコトヲ切り出シタラ使ヲ早速工場ニ走ラセアスパラビン詰六ヶ、スウキートコーン六ヶ、計一ダース持参セシム。代金ヲ尋ネタラ、ソレハ御祝ヒニ差上ゲルトノコトニ自分ハ甚ダ恐縮ニ思ツタ。手ニサゲテ帰宅途中、寒気強ク手袋ノ中デ指ガ硬直スル。今日、チャ

チャン手伝ニ来ル。夜、風呂ヲ立テル。夕方、食事セントスル前、ミイ子チャン急ニ泣キ出シタ。昼過前、お八ニ出タダンゴ類ガ当ツタラシイ。浜チャンモ全様。併シ益子モ澄子モ平気ダ。近所ノ澄子ノ友達本間節チャン来遊。本間²³⁰⁾ 医学士ノ令妹ヨリノ御祝儀ヲ持参。自分ハ帰宅ノ際、玄関先デブツカル。全ククーニャン²³¹⁾ ニ似テキル。令女ハ応接室ノ電気ストーヴヲ賞メタト。日照リノ関係ガ大ト思フ。其前ニ渡辺君ノ奥様祝儀ニ来ラル。十円ト白米(小牛田産)ヲ与ヘラル。

十二月十二日(水)

発信 ○矢島武氏 ((ハ))

澄子結婚式

朝一寸登校スル。昼前ニ帰宅。既ニチャチャン子供ヲ連レテ手伝ニ来テ居タ。ソレニ琴似ノ富子様モ髪結(二人来宅)ガ済ンデ茶ノ間ニ見エル。顔ヤエリモトヤ手頸アタリ一面黄色デ、色ノ黒イノ目立ツ。姉上モ南瓜ノ色ガ今ダニ出テ来テ困ルナドト自ライヒ出サレテ苦笑。結婚式ハ二時カラ三吉神社トナツテキルガ、定刻ガ来テモ越山家ヨリ約束ノ中島向ノ自^{〔動〕}転車ガ見エズ、越山家ヤ有賀自動車店トノ間ニコチラヨリ幾回トナク電話ヲカケテ漸クヤツテ来タ。一台ハ先キニ越山家ヨリ新郎及一族ヲ神社ニ運び(最初ノ計画デハソノ同ジ auto ガ媒妁人今先生ノお宅ニ廻ル筈デアッタノニ、予定ガクルヒ自分達ノ乗ッタ auto ガ神社カラ今先生宅ニ向ッタ)、ソレカラ他ノ一台ガ中島宅ニ迎ヘニ来タ。澄子、益子、富子サント自分ノ四人(自分ハ助手台ニ腰カケタガ、助手台ニハ機械ノ部分ガ出張ッテ脚ノ置き所ガナイ。コンナ自動車ハ自分ニ取り初メテダ)同乗シタ。雪上スラスラト走ル。時々、街行ク人々ノ注目ヲ受ケル。社ニ着クトソコニ三畏君ト司君ト出迎ヘテキタ。越山家トハ別室ニ案内サル。山田勝伴氏、一次、収久衛君ノ三人ガ先著サレテキタ。火ノ氣ノ少イ広イ奥マツタ室(后デ親戚披露ノ間ニ使ハル)デアル。自分ハ早速、越山家ノ控室ヲ覗キ、一寸越山様ニ挨拶シタ。自動車延著ノお詫ノ積リデアッタコロ、早速、函館ノ近江夫人ニ紹介サレタ。間モナク今先生、御両所来著。直グニ結婚式場ニ入ル。佐藤神主ノ外、神官二人デアッタカト思フ。カナリノ寒サダ。自分ハ感冒ノ気味ダ。式ガ済ムト両家一緒ニ親戚盃ノ部屋ニ入ル。盃事済ムト、佐藤神主、一寸挨拶ニ見エル。ソレカラ別室(以前越山家ノ控室)ニ移リ越山氏ト自分ガ互ニ両家ノ親戚ノ人々ヲ紹介スル。ソレカラ auto デ自分ハ今様ヤ越山氏等ト共ニ披露場三井クラブニ向フ。定刻(四時半)ニハ未ダ時間ガアルノデ、西辻氏以外ニ人影モ見エヌ。応接室ニハ未ダ火ノ氣ガナイ様デ寒イ。食堂ニ入ルト上田²³²⁾ 氏ガ居ラレタ。女ノ人々ガ食堂ノ準備ヲナス。盛花(綱木)ヲ飾ル。植物園カラ取寄セタ蘭ガ異彩ヲ放ツ。主卓ニーツ、他ノテーブルニニツ、計三ヶデアル。開宴ニ先ダチ、今先生ノ媒妁人トシテノ挨拶アリ。オードーブル((燻製鮭、玉子(半円形ニ縁ヲ一寸飾レルモノ)、チーズ(自分ノ提供分担))),ポタージュ(グリーンピー、牛肉ノスープ混)、鮮魚(キンキ頭付、イカ)、牛肉(シチュー、肉ノ大片)、牛肉(ロースト野菜煮)、赤飯(皿ニ大盛り)、リング(golden delicious、大学果樹園ヨリ自分ガ取寄)、紅茶(有糖)ガ出ル。自分ハ超満腹トナリ、腹ガ張ルコト夥シ。デザートコースニ入ルヤ、

今先生ノ御指名ニヨリ、先ヅ北斗ゴム大宮²³³ 重役（専務）ノ祝詞（ピアノノ美シキメロデーナドト新婦ヲ賞メル）。次ニ上原教授ノ祝詞アリ。友人総代ハ苦米地君不参ノタメ省略。友人トシテ柳田君（小樽高商出身、発送電勤務）ハ出席シテキタガ祝詞ヲ遠慮シタ。後デ聞ケバ、小樽ノゴム会社カラ出席ノ大宮、雨沢²³⁴ 両氏ハ吹雪ノタメ、今夜、石川氏宅ニ宿ラレタサウナ。

十二月十三日（木）

越山様デハ、今日早速、媒妁人今様ノお宅ニお礼ニ廻ラレタ由。新夫婦モ未ダナノニ、ソレハ早過タト思ッタ。善ハ急ゲデヨイカモ知レヌガ。

十二月十四日（金）

越山氏両親ヲ今夕、自宅ニ招ク。新夫婦ト自分等兩人ト六人睦ジク座敷デ食事スル。内地白飯（渡辺君ヨリノ祝物）ハ特ニ好評。併シ自分ハ風邪ノタメ食欲ガ十分ニ出ヌ。カシワノ吸物トカシワノフライ、アスパラ、数ノ子（ヌタ付）等出ル。数ノ子ハ越山様モ文哉君モ非常ニ賞メル。新郎新婦、今様、西辻様宅ニ廻礼。

十二月十五日（土）

北大病理出身者招待ノ今先生御夫妻ニ対スル謝恩慰安会ガ構内豊平館食堂（武道場脇）デ催サレタサウナ。初メハ定山溪ノ予定デアッタガ、会員中カラ色々珍ラシイ食品ヲ持寄ルコトニナッテキルト。

十二月十六日（日）

近衛文麿公、早暁、荻外荘デ服毒自殺

十二月十七日（月）

文哉君、今日カラ小樽ノ会社ニ出勤

十二月十八日（火）

朝、西辻様方ニ廻礼。夫妻共居ラレル。一寸部屋ニ上ル。「御礼」（金壺百円在中）ヲ呈ス。奥様、先夜ノ披露宴ニ案ノ如ク風〔邪〕ヲ引カレタト。ソレカラ今先生御宅ヲ訪ネル。初メハ玄関先デ失礼スル積リデアッタガ、一寸上レトノ先生ノ御言葉ニ甘ヘテ応接室ニ通ッタ。併シ御夫妻ノ協力ニモ不関、薪ストーヴガ焚キツカズ幾本トナクマッチヲ摺リ捨て、お気の毒ダッタ。自分ハ間モナク辞去。玄関先ニアッタストーヴハ先生ガ自分ノ教室ニ持ち行カレルモノダサウダ。

十二月十九日（水）

水曜会デハ助川²³⁵ 会員ノ終戦前府県ニ於ケル軍需工場ヘノ出動（監督ガ本来ノ意味）ノ情況ニツキ話ガアル。余リ面白カラズ。隣席ノ竹内²³⁶ 会員ノヒソヒソ話ニヨレバ、狸小路ノ闇露店デハ金サヘ出セバ何ンデモアルトノコト。ソシテ内地旅行デモ金サエ出セバ今日ハ宿^[泊]メテ呉ルト。又々金ガ物イフ世ノ中ニナッテ来タワイ。

十二月二十日（木）

月寒本通ノ伊藤肉店ニ至リ鶏一羽注文。明后二十二日取りニ来ル約束ス。因デハ近来全ク野菜ノ新入荷ナシ。止ムナクキャベシノ大形ノモノーツ求ム。狸小路ノ露店デ桜肉二百目

(百目五円) 求メタガ、案外美味。又、大通デ鰯目^{〔刺〕}差一串(十尾)買ッタガコレモ佳カッタ。

十二月二十一日(金)

大通ノ露店デ千島苔一枚(十三円五十銭)買ヒ帰ッタガ、益子高イトテアキレル。併シ明后ノ小樽会社重役連ノ招待会ニモコレ丈ケハ出サヌ積リ。正月用ノ為メダ。二中裏ノ渡部製麩所ニ念ノタメ寄ッタラ、妻君親切ニモ二階ノ老母ノ所ニカケ上リ、ヤット五十目足ラズデハアッタガ切ッタ麩ヲ分与シテ呉レル。親切ダ。

十二月二十二日(土)

今日デアット思フガ、島学部長カラ電話アリ。復元ノ北大新聞ニ農地調整法ノ批判ト題シ寄稿シテ呉レト。正月五日メ切

十時頃、月寒伊藤肉店ニ行ッタガ主人生鶏ヲ求メニ農村ニ出掛ケテ留守ダッタ。一人若イ人モ(アノラック着)先キカラ待ッテキタ。店ノ妻君お茶ヲ出ス。一時間程待ツ内ニ主人鶏下ゲテ帰来。直チニ殺シ熱湯デ羽毛ヲムシテ呉レル。前回全様三十五円トイフ。余リノ勉強振りニ驚キ、辞退スルノニ四十円置ク。

十二月二十三日(日)

日本交通公社ニ午後一時過、武石氏訪問。三国ハマチャンノ稚内迄ノ二等切符求ム
伊藤俊夫君、昼近ク来宅。澄子ニ祝儀

小樽ノ北斗ゴムカラ大宮専務(光男)、吉村常務(営業部長、伝次郎)、雨沢取締役(製造部長、隆観)、石川氏、以上四人、越山家ノ招待ニヨリ自宅ニ来ラル。初メハ越山家ニ一寸休憩ノ積リノトコロ、時間ナキタメ直グニ来宅。ソレガ三時半頃ダ。酒宴ニ始リ、牛鍋ガ出ル。お膳ニハ蟹カンヅメト野菜ノ酢物、数子(ヌタ)、吸物(カシワ)、イカノ煮付、白飯。以上ノ中、吸物ノ鶏、ソレニ数ノ子ハ中島ノ方デ提供。辞去ノ際、文哉君十五丁目迄見送ル。越山両親座敷ニ残ル。例ノ自分ノ立替金一二四円〇六銭ノ支払ヲサレル。

十二月二十四日(月)

発信 ○巖松堂((ハ)委任状)

時計台附近デ宮脇君ニ出会。澄子ヘノ祝儀代ヲ渡サル。ソレカラ伊藤俊夫君ノ話ヲスル。帯広校ニモ空ガアルラシイ口振り

三国ハマ子様出立

ハマチャン出立スル。澄子、駅迄見送ル。今日ハ砂糖ノ配給日。一人四〇匁トノコト。今晩早速、紅茶(牛乳入)ヲセンジ水入ラズデ四人デ飲ム。美味ダ。本局デ郵貯中ヨリ二千円払戻(北大ノ国民貯蓄)ス。子供デ百円札何枚モ引出シテ居ルノヲ見受ケル。今先生お宅カラ越山、中島両家ト新夫婦ヲ明日招待。

十二月二十五日(火)

終日家居。新聞ノ整理スル。越山様夫妻ト益子ソレニ新夫婦五人、午前中、今先生ノおヨバレニ出掛ケル。自分ハ感冒ヲ口実ニ辞退。益子ハ花折昆布二束御礼ニ持参。今先生自ラ進ンデ親任待遇(去月二十六日発令)ノ辞令中ノ御親筆(裕仁)ヲ一同ニ示シテ嬉シガッ

テキラレタト。随分稚氣ニ満チタお方ト思フ。コレガ皆々親ミヲ持タレル一因デアラウ。道子様ノ腕ニヨル支那料理デアッタ由。道子様ノ主人（二十五、六才）モ出席サレタト。コチラカラノ一同（五人）共、往復トモ歩行。コノ数日来、ボタン雪デ線路固マリ電線不通。僅カニ駅ヨリ薄野及四丁目ヨリ二十丁目迄複線開通。薄野ヨリ道庁官舎前迄ヤット単線運転。

十二月二十六日（水）

発信 ○高柳貫一氏（（テ）礼状）

午前十時半カラ委員会主題ハ助教授推薦ノ件。自分ガ島学部長ヨリ委員長ニ指名サル。高岡道夫²³⁷ 教授、自分ノ配下ノタメノ助教授（斉藤恒行²³⁸）ヲ強硬ニ主張スル。高岡（水産）、黒沢（獣医）、手島²³⁹（農学）ノ三学科主任、互ニ譲ラヌノデ、遺憾ナガラ投票ニ訴ヘル。今日迄水曜会ガアッタ由、コレガ年内ノ最後ノ例会。委員会ガ終ッテカラ歩イテ苗穂ノ興農公社ニ行キ、バター六封度、秘書課ヨリ受取ル。危ク減額サレヨウトスル所ヲ今迄通りトナリ、且ツ今迄数回ニ亘リ二度ニ分ケテ取りニ行ッタノニ今日ニ限り一度ニ全部受取ルコトガ出来タノハ、全ク佐治²⁴⁰ 常務ノお蔭ダ。

十二月二十七日（木）

発信 ○矢島武氏（（テ）履歴書書キ直ス様ニ農学部ヨリ出ス）

益子ガ山田家ニ行ッタラ、来春、長男ヨシヲ²⁴¹ 君結婚スル筈ダカラ、其ノ際ハ自分等ニ媒妁ヲ頼ムトイハレタト。山田様、危ク肺炎ニナラウトシ臥床中デアッタト伊藤俊夫君来室。昨日アタリ宮脇校長ト会ッタラ全校補習科ノ教官トシテ推薦スル積リダガ成否ハ不明トイハレタト、自分ニ報告。ソシテソノ方不成功ノ曉ハ宜敷頼ムト、自分ニ頼ミ込ンダ。郵便本局ニ行キ通帳ノ国民貯蓄中ヨリ一千五百八十円払戻ス。残りハ百余トナル。午前中、北海道住宅ノ吉川管理課長来宅。宅地譲渡ノコトニ付話ヲスル。代金ハ正月下旬迄支払延期ヲ望ンデ置イタ。以前ノ面積一〇四坪ヨリ、今度ハ一一四坪ニ一〇坪殖エタ事情ヲ当方ヨリ尋ネテモ、先方デモ明答ヲ与ヘ兼ネルノハマドロシイ。夜、コーヒーヲイリ、文哉君ガ主トナリ粉ヲヒク。直チニコーヒーヲ立テル。今度、砂糖ノ配給ガアッタカラダ。益子、琴似ノ山田ニ返礼（結婚）ニ昆布ヲ持ち行ク。帰リニ或強麦（米ト麦ノ合ノ子ノ如ク見ユ）ヲ二升モ貰ッテ来ル。

十二月二十八日（金）

農学部本館三階ノ御座所御跡ノ標札撤退サレタノニ今日気付ク
文哉君、昨晚ノコーヒーノタメ夜中十二時迄モ眠レナカッタト。自分ハ平気デアッタ。

十二月二十九日（土）

発信 ○佐治正一氏（（テ））

○佐藤貢氏（（テ））

○宮原幸三郎氏（（ハ））

○北海道物価統制協力会議（（ハ））

原田現蔵²⁴² 氏（令弟）ノ葬儀、中央寺ニテ午後二時ヨリ執行。香典（十円）包ミテ参列。

遺族席ニ先ヅ入りテ文子²⁴³⁾ 氏や令兄優蔵²⁴⁴⁾ 氏ニ御悔申上ゲル。若林様や勝²⁴⁵⁾ 様、小田五郎²⁴⁶⁾ 氏ノ顔見エル。自分ノ挨拶前ニ木村靖²⁴⁷⁾ 様モ入室、挨拶ヲ述ベテ居ラレタ。ソレカラ式場(平日ノ休憩室デ、ストーヴ入レアリ)ニ入ル。成田叔母様や里²⁴⁸⁾ 氏ノ奥様等居ラレル。隣座ニ藤田昌²⁴⁹⁾ 様ガキラレタガ、明治四十三年、自分ガ北大卒業ノ際、全窓会ノ新入会員歓迎会(創成川畔ノ全窓会デアッタト全氏イハル)ノ席上、自分ノ答辞ニ対シ佐藤²⁵⁰⁾ 先生ガ頷イテ居ラレタト新耳ノコトヲ聞ク。北大五十年沿革史ヲ欲シイトノコト。古本屋ニモ見当ラヌト。

十二月卅日(日)

今夜迄ニヤット古新聞全部目ヲ通シ終ル

朝、家ヲ出デ全然歩イテ月寒ノ伊藤肉店ニ行ク。牛肉ヲ求メタガ無ク、辛ウジテ馬肉三百目(十二円)ヲ求メ得タ。ソレハ年明ケテ文哉君ガ弟二人ヲ招待スル時ノタメダ。昼帰宅の上、午後一時カラノ田所君尊父ノ告別式ニ出掛(享年八十九)、宮部、高岡、時任、半澤、三宅ノ諸氏ガ先著シテキラレタ。帰途、今様、小熊、坂村諸氏ニ出会。三宅様、ゴム長ノ指部ヲ双方共頑丈ニ縄デ結ンデキル。転バヌ用心ダ。田所氏ノ宅ニハ壁面ニ絵ガ多クカケテアル。下野氏ノ顔ガ見エル。恐ラク撮影ノタメデアラウ。夕食ニハ酒カスノ味噌汁(酒カスハ越山方ヨリ来ル)ヤ海宝麵ノおツユ(コレハ文哉君ガ小樽ヨリ)ガ出ル。

十二月卅一日(月)

発信 ○村木設氏((ハ))

○前田健二氏((ハ))

朝、関氏(農家)方ヲ訪ネタトコロ、老主人今出掛ケタ許リトノコトデ、孫娘ガ自分ヲ案内シナガラ後ヲ逐ヒカケタガ中々呼止メル声ガ届カズ、其ノ中ニ自分ノ声ガ聞エテ後ヲ振り向ク。逐ヒツイテ、例ノ物々交換ノ話ヲ持チカケル。毛布ヤ衣桁ヲ望ムトノコト。夕刻近ク全家ニ衣桁持チ行ク。是非上レトイハレ、茶ノ間ニ上リ四方山ノ話ヲスルニ、主人ガ自分ニ齡ヲ聞ク。顔ガ良イノデ余程若カラウトイフ。到頭、先方ノ年ヲ吐キ出サセタ。六十四オデ明ケレバ五オトイフ。自分ハソレヨリズット若イトイヘバ十モ違フカト尋ネル所愉快ダ。衣桁ト薯一俵トイヒ出ス。掛引スルコトハ嫌イナ男ダカラトイヒ出シタ。自分モ直グ様ソレニ全意シタ。実ハ越山家カラ軍隊毛布ガ届ケラレル筈デアッタガ、文哉君ノ持参ガ遅レタノデ、自分ハ自宅ノ衣桁(黒色)丈ケ持ッテ行ッタノダ。大晦日ノ晩ダノデ、今夜ハ馳走ヲ出ス。四人楽シク膳ヲ囲ム。文哉君ニ大イニ酒ヲス、メル。自分モ可成盃ヲ重ネル。白飯ダ。鰹ノ塩辛評判ガ良イ。

【注】

- 1) 満州拓殖公社勤務。1942年農学部農業経済学科卒業。
- 2) 北海道農会勤務。1935年農学部農業経済学科卒業。
- 3) 北海道庁立女子医学専門学校。現在の札幌医科大学。
- 4) 不詳。

- 5) アメリカの農学者 Norman Scott Brien Gras。 *A history of agriculture in Europe and America*, New York : F. S. Crofts, 1925.
- 6) 中島益子。九郎の妻。
- 7) 北海道拓殖銀行調査部長。
- 8) 1931年農学部農業経済学科卒業。
- 9) 浜田輔一。農林専門部教授。家畜衛生学専攻。
- 10) 池原偉。北海道拓殖銀行勤務。1929年農学部農業経済学科卒業。
- 11) 山田勝伴の三男。農学部農芸化学科学生（1942年7月入学）。
- 12) 北海道拓殖銀行頭取。
- 13) 石黒忠勝。農商務大臣。
- 14) 永井一夫。医学部教授。小児科医学専攻。
- 15) 石塚喜明。農学部助教授。農芸化学専攻。
- 16) 田町以信男。農学部助教授。農芸化学専攻。
- 17) 岡村精次。盛岡農林専門学校長。
- 18) 渡辺侃。農学部教授。農業経営学専攻。
- 19) 岡川栄蔵。南満州鉄道株式会社勤務。
- 20) 高倉新一郎。農学部助教授。農業経済学専攻。
- 21) 小林巳智次。農学部教授。農業経済学専攻。
- 22) 上原轍三郎。農学部教授。農業経済学専攻。
- 23) 伊藤誠哉。農学部長。植物病理学専攻。
- 24) 松田武雄。農学部教授。農業経済学専攻。
- 25) 今田清二。函館水産専門学校教授。
- 26) 九郎の妹高山ハツ子の夫。1922年農学部畜産学科第一部卒業。樺太庁中央試験場勤務。
- 27) 農学部農業経済学科学生。中国（満州）からの留学生。
- 28) 満州に帰ること。
- 29) 東亜研究所勤務。1934年農学部農業経済学科卒業。
- 30) 益子の姉。
- 31) 宮部金吾。北海道帝国大学名誉教授。植物学専攻。
- 32) 宮部一郎。1912年東北帝国大学農科大学農学科卒業。
- 33) 佐藤昌彦。農学部助教授。法律学専攻。
- 34) 上原六郎。札幌市長歴任。
- 35) 高山ハツ子。九郎の妹。高山保二の妻。
- 36) 札幌市会議員。
- 37) 留岡幸男。元警視総監。
- 38) 小谷義雄。札幌市会議員。
- 39) 村田不二三。札幌市会議長。
- 40) 島善鄰。農学部教授。園芸学専攻。
- 41) 三沢寛一。前札幌市長。
- 42) 関堂利夫。札幌市会議員。
- 43) 武田直秀。工学部教授。燃料学専攻。
- 44) 井口賢三。農学部教授。畜産学専攻。
- 45) 中島澄子。九郎の長女。
- 46) 大学院特別研究生。研究テーマは「人口政策上ニ於ケル農業ノ地位ニ関スル事項」。

- 47) 黒澤西藏。興農公社社長。
- 48) 熊谷憲一。北海道庁長官。
- 49) 秋山愛生館社長。
- 50) 小山内巖。農学部書記。
- 51) 安孫子孝次。北海道農業会会長。1908年東北帝国大学農科大学農学科卒業。
- 52) 駒沢欣一。農学部助手。農業経済学専攻。
- 53) 井川伊平。
- 54) 河西一次。九郎の従弟。北海道農会勤務。厚別在住。
- 55) 岡村信雄。北海道帝国大学事務官。会計課長。
- 56) 中島家の元女中高山チヤの夫。
- 57) 高山トモ子。高山立雄・チヤの長女。
- 58) 成田静子。九郎の教え子成田収久衛の妻。河西一次の妹。九郎には従妹にあたる。
- 59) 沖縄戦における第32軍司令官。沖縄本島南部撤退を決定し、摩文仁の丘で自決。
- 60) 中野豊。予科教授兼事務官。
- 61) ヴィチエスラフ・モロトフ。ソビエト連邦外務大臣。
- 62) 佐藤尚武。駐ソビエト連邦大使。
- 63) 大村健太郎。山田富子の子息。高柳栄子の養子。
- 64) 松本久喜。農学部助教授。畜産学専攻。
- 65) 帝国繊維株式会社。
- 66) 正見透。樺太精糖株式会社取締役。1912年東北帝国大学農科大学農学科卒業。
- 67) 田沢博。札幌地方気象台勤務。1924年農学部農学科卒業。
- 68) 阿南惟幾。陸軍大臣。
- 69) 鈴木貫太郎。総理大臣。
- 70) 長尾正人。農学部教授。育種学専攻。
- 71) 沢田英吉。農学部助教授。農学専攻。
- 72) 今裕。北海道帝国大学総長。病理学専攻。
- 73) 東久邇宮稔彦王。総理大臣歴任。
- 74) 予科講師。数学担当。
- 75) 近衛文麿。元総理大臣。
- 76) 南次郎。元陸軍大臣、元朝鮮総督。
- 77) 宇垣一成。元陸軍大臣、元朝鮮総督、元外務大臣。
- 78) 札幌市電の路線名。札幌第一中学校（一中）付近を通っていた。
- 79) 軍令部次長。海軍の特攻作戦を指揮した。
- 80) 1925年農学部農業経済学科卒業。
- 81) 千石興太郎。札幌農学校第13期生（1895年卒業）。農商大臣。
- 82) 出納功。日本新薬株式会社社長。
- 83) 参謀次長。
- 84) 東季彦。北海道新聞社社長。
- 85) ホセ・ラウレル。日本軍政下のフィリピン共和国大統領。日本に亡命。
- 86) スバス・チャンドラ・ボース。日本が後援した自由インド仮政府国会首席。
- 87) 四手井綱正。
- 88) 陸軍大将。陸軍大臣を歴任。
- 89) 元法制局長官、元厚生大臣。

- 90) 島田日出夫。中央農業経済会勤務。1927年農学部農業経済学科卒業。
- 91) 高山チヤ。中島家の元女中。夫は立雄。
- 92) 南鐵藏。農学部助手。農業経済学専攻。
- 93) 有末精三。陸軍中将。
- 94) チャールズ・テンチ。アメリカ軍先遣隊。
- 95) 田所哲太郎。理学部教授。生物化学専攻。
- 96) 館脇操。農学部助教授。植物学専攻。
- 97) 馬淵義雄。北海道拓殖銀行勤務。1928年農学部農業経済学科卒業。
- 98) 元工学部長・教授。水工学専攻。
- 99) 梅田魁。理学部教授。物理学専攻。
- 100) 吉川宥一。北海道庁技師。1915年東北帝国大学農科大学農学科卒業。
- 101) 上村宇多弥。北海道拓殖銀行株式会社取締役。
- 102) 青木一雄。北海道農業会勤務。1930年農学部農業経済学科卒業。
- 103) 武田憲治。文部省教学官。1920年農学部農芸化学科卒業。
- 104) 市川忠次。北海道庁小作官。1933年農学部農業経済学科卒業。
- 105) ダグラス・マッカーサー。連合軍最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）総司令官。
- 106) 重光葵。外務大臣。
- 107) 梅津美治郎。陸軍大将。参謀本部参謀長。
- 108) 山本政民。1945年農学部農業経済学科卒業。
- 109) 海軍中将。艦政本部近畿監理長。
- 110) 大賀恵二。工学部教授。原動機学専攻。
- 111) 犬飼哲夫。農学部教授。動物学専攻。
- 112) 河野広道。北海道考古学・人類学者。
- 113) 東郷実。札幌農学校第二十二期生（1905年卒業）。大日本政治会政務調査会長。
- 114) 小熊捍。低温科学研究所・触媒研究所長・教授。動物形態学専攻。
- 115) 野間海造。東京帝国大学農学部助教授。農業経済学専攻。
- 116) 松田武雄。農学部教授。農業経済学専攻。
- 117) 高岡熊雄。北海道帝国大学名誉教授。植民学専攻。
- 118) 1931年農学部農業経済学科卒業。元京城帝国大学教員。
- 119) 越山友之。後に澄子の義父。越山商店社長。
- 120) 1941年農学実科卒業。九郎の教え子成田収久衛の弟。
- 121) 東条英機。陸軍大将。元総理大臣、元参謀本部参謀総長。
- 122) 越山文哉。友之の次男。後に澄子の夫となる。
- 123) 農学部農業経済学科学生（1942年入学）。
- 124) 杉山元。元帥陸軍大将。元陸軍大臣、元参謀本部参謀総長。
- 125) 浜田輔一。
- 126) 北海道拓殖銀行株式会社勤務。1929年農学部農業経済学科卒業。
- 127) 真田重雄。農学部附属農場書記。
- 128) 佐藤貢。北海道興農公社株式会社専務。
- 129) 古谷辰四郎。古谷商店株式会社社長。
- 130) キャベツ。
- 131) 宮脇富。帯広畜産専門学校長。
- 132) 堀越義雄。帝国繊維株式会社帯広亜麻工場長。1934年農学部農業経済学科卒業。

- 133) 斎藤竹次郎。後に農学部農業経済学科に進学。
- 134) 服部品吉。予科長。漢文担当。
- 135) 岩瀬喜作。予科教授。数学担当。
- 136) 熊谷憲一。北海道庁長官。
- 137) 伊藤豊次。伊藤組社長。
- 138) 成田収久衛。帝国繊維株式会社勤務。1940年農学部農業経済学科卒業。
- 139) 小樽商業高等学校教授。
- 140) 越山友孝。友之の長男。
- 141) 古谷辰四郎。畜産業経営。
- 142) 1942年農学部農業経済学科卒業。
- 143) 本庄登志彦。
- 144) 高杉直幹。理学部助教授。生物化学専攻。
- 145) 荒又操。農学部助教授。農業経済学専攻。
- 146) 元九州帝国大学総長。
- 147) 横溝政八郎。北海道帝国大学学生主事。
- 148) 矢島武。元農学部助手。農業経営学専攻。1942年1月に北海道農業研究会がマルクス主義農業理論の啓蒙宣伝を意図するものとされ、矢島らは特高により検挙された。
- 149) 幣原喜重郎。総理大臣。
- 150) 川村琢。北海道農業会勤務。
- 151) 内田登一。農学部教授。昆虫学専攻。
- 152) 1945年農学部農業生物学科卒業。
- 153) 赤羽雄一。1889年札幌農学校卒業。
- 154) 吉田茂。外務大臣。
- 155) 下村定の誤り。陸軍大臣。
- 156) 米内光政。海軍大臣。
- 157) 松村謙三。農林大臣。
- 158) 久田一夫。1945年農学部農業経済学科卒業。
- 159) 北田寛二。1945年農学部農業経済学科卒業。
- 160) 阿倍能成。第一高等学校長。
- 161) 三国浜。中島家の元女中。利尻島出身。
- 162) 戦前、無産政党内に属した代議士。後に日本社会党結成に参加。
- 163) 元文部大臣。
- 164) 吉川知己。農学部農業経済学科学生 (1945年入学)。
- 165) 金田弘夫。農学部農業経済学科学生 (1943年入学)。
- 166) 山田モト子。勝伴の五女。
- 167) 河西敬一。河西一次の長男。
- 168) 杉野目晴貞。理学部教授。有機化学専攻。
- 169) 山田幸太郎。元北海道庁立札幌第一中学校長。
- 170) 江原玄治郎。北海道庁立札幌高等女学校長。
- 171) 益子の姉山田富子の夫。1904年札幌農学校卒業。
- 172) 土屋四郎。農学部助教授。法律学専攻。
- 173) 室蘭市長。
- 174) 崎浦誠司。農学部農業経済学科学生 (1942年入学)。

- 175) 藤原敏郎。農学部農業経済学科学生（1942年入学）。
- 176) 高橋暢。農学部農業経済学科学生（1942年入学）。
- 177) 益子の親戚。
- 178) 村木設。農林技師。1932年農学部農業経済学科卒業。
- 179) 元台湾総督府技師。1920年農学部農業経済学科卒業。
- 180) 元東洋拓殖株式会社勤務。1938年農学部農業経済学科卒業。
- 181) 元「満洲国」國務院総務長官。1911年北海道帝国大学農科大学農学科卒業。
- 182) 外崎正次。1945年農学部農業経済学科卒業。
- 183) 松井茂雄。1945年農学部農業経済学科卒業。
- 184) 高松正信。農学部教授。畜産学専攻。
- 185) 大野精七。医学部教授。産婦人科学専攻。
- 186) 黒澤西藏。興農公社社長。札幌農学校卒業。
- 187) 三宅康次。名誉教授。農芸化学専攻。
- 188) 吉町太郎一。名誉教授。橋梁学専攻。
- 189) 有馬英二。医学部教授。内科学専攻。
- 190) 浅見義弘。工学部教授。電気工学専攻。
- 191) 畑井義隆。農学部農業経済学科学生（1943年入学）。
- 192) 1910年農学部農業経済学科卒業。九郎と同期。
- 193) 医学部教授。衛生学専攻。
- 194) 農学部農業経済学科学生。
- 195) 苔米地英俊。小樽経済専門学校長。
- 196) 若林功。八紘学院教頭。1899年札幌農学校農学科卒業。益子の叔母の夫。
- 197) 平野初之輔。プロレタリア文学運動の理論家。
- 198) 農務省勤務。1935年農学部農業経済学科卒業。
- 199) 労働科学研究所勤務。1943年農学部農業経済学科卒業。
- 200) 葉袋六良。1931年農学部農業経済学科卒業。
- 201) hominy。挽き割りトウモロコシ。
- 202) 九州帝国大学総長となる。農芸化学専攻。
- 203) 百武源吾。九州帝国大学総長。海軍大将。
- 204) Kenyon L. Butterfield。元ミシガン農科大学長。農学者。
- 205) 越山孝。友之の妻。
- 206) 清瀬一郎。弁護士。極東国際軍事裁判で日本側弁護団副団長、東条英機被告主任弁護人を務める。
- 207) 牧野英一。刑法学者。東京帝国大学名誉教授。
- 208) 徳田球一。日本共産党結成に参加。戦後、書記長となる。
- 209) 大爺栄一。農学部農業経済学科助手。
- 210) 伊藤里。伊藤俊夫母。山田勝伴妹。
- 211) 後日（28日以降）、記述された。
- 212) 益子の叔母の夫。
- 213) 藪務。ロータリー
- 214) 黒沢亮助。農学部畜産学科教授。獣医学専攻。
- 215) 沢田英吉。農学部農学科助教授。園芸学専攻。
- 216) 中島文之助。理学部書記。
- 217) 金木藤雄。

- 218) 農学部教授。附属演習林長。
- 219) 画家と思われる。不詳。
- 220) 越山三畏。越山友之三男。
- 221) 越山司。友之四男。
- 222) 中野豊。
- 223) 小野謙次。札幌第一中学校教頭。
- 224) 真崎健夫。医学部教授。薬理学専攻。
- 225) 黒沢良雄。1937年農学部農業経済学科卒業。
- 226) 前田健二。1936年農学部農業経済学科卒業。元朝鮮殖産銀行勤務。
- 227) 東弘。日本輸出農産物株式会社勤務。1929年農学部農業経済学科卒業。
- 228) 松方正義。元総理大臣。
- 229) 宇留野祐寿。農林専門部助教授。
- 230) 本間慶造。病院経営。
- 231) 中国語の「姑娘」から、中国人の若い娘の意味。
- 232) 上田村次郎。
- 233) 大宮光男。文哉の勤務先、北斗ゴム株式会社専務。
- 234) 雨沢隆観。北斗ゴム株式会社製造部長。
- 235) 助川貞利。北海道大化院長。
- 236) 竹内恒宏。呉服店経営。
- 237) 農学部教授。水産化学専攻。元総長高岡熊雄長男。
- 238) 山下生化学研究室勤務。
- 239) 手島寅雄。農学部教授。農学専攻。
- 240) 佐治正一。1919年東北帝国大学農科大学農学科卒業。興農公社取締役。
- 241) 山田勝夫。山田勝伴次男。
- 242) 原田現蔵。若林功の三女文子の夫。
- 243) 原田文子。若林功の三女。
- 244) 原田優蔵。
- 245) 若林勝。功の長男。
- 246) 若林功の次女の夫。
- 247) 北海道農機具工業組合専務理事。1911年東北帝国大学農科大学農学科卒業。
- 248) 里正義。農学部教授。畜産学専攻。
- 249) 1897年札幌農学校卒業。大日本麦酒株式会社顧問、札幌グランドホテル株式会社取締役。
- 250) 佐藤昌介。札幌農学校第一期生。元札幌農学校長・東北帝国大学農科大学長・北海道帝国大学総長。植民学専攻。

【解題】

1. 中島九郎1945年日記（下）について

前号の「中島九郎1945年日記」（上）に続き、（下）は1945年7月～12月分である。引き続き、日記原本を所蔵されているご息女越山澄子氏が作成した翻刻ノートを底本として、大学文書館の山本が補筆し、井上が注記などの加筆を行なった。

7月に入って戦争状況はますます悪化している。空襲が激しくなり警戒警報発令が連続し、水曜会（ロータリークラブ例会）も中止となることがあった。勤労働員の様子も描いている。広島・長崎へのアメリカ軍による原子爆弾、ソビエト連邦参戦を経て、8月15日の終戦を迎えた。当日、農学部前での「玉音放送」、工学部前での今裕総長の訓示の様子を記録している。敗戦後の軍部や政局の混乱も細かく記載している。

敗戦後の大学は、防空壕の埋め立て、復員学生・転科希望学生への対応、改組などが進む。中島は農政学の専門家として、自作農創設についての北海道庁の委員会に出席するなど、敗戦後の農地問題にも関わっている。

また、親戚や教え子の多く住む樺太の様子を気に掛けている。日記にも、樺太、朝鮮半島、中国からの引き揚げ者と考えられる人物が多数登場する。中島の後輩に当たる農業経済学科出身の伊藤俊夫は京城帝国大学文学部助教授を務めていたが、職を失うことになった。恩師の高岡熊雄名誉教授が、伊藤の処遇を中島に依頼している。その後、伊藤は北海道大学経済学部創設期の重要メンバーとなった。

また、敗戦後の札幌の物価高騰、闇市、占領軍兵士なども記録している。

一方、9月以降、中島の長女澄子の婚礼の話が進み、12月に挙式を行なっている。日記の後半は、敗戦後の混乱状況の中、中島が婚礼の準備に奔走する様子を詳しく記録している。結婚した澄子と越山文哉は中島家に同居するが、中島が一家団欒を非常に楽しんでいる様子を、微笑ましく日記に書き留めている。中島は1945年以前も日記を記していたと考えられるが、1945年日記だけを大切に保管していたのは、敗戦という激動期であり、そして一人娘である澄子の結婚という一大事件があった年であったためではないかと推測できる。

2. 中島九郎の著述について

中島九郎は1910年東北帝国大学農科大学農学科を首席で卒業した。すぐに教員となり、一貫して農業経済学、特に農政学の研究を進めた。著述一覧に示したとおり、研究業績はかなりの量にのぼる。著述内容も多岐に渡るが、①北海道農政に関わる著述、②アメリカ・ドイツを中心とした農業経済学説に関する著述、③北海道大学史及び佐藤昌介の伝記に関わる著述が中心となっている。

①②は中島が専攻する研究テーマであった。③は『創基五十年記念 北海道帝国大学沿革史』を執筆して、研究テーマとは別に中島自身に関心を持ち続け、取り組んでいた。中

島が大学退官後に著した伝記『佐藤昌介』（川崎書店新社、1956年9月）は、昌介の子息佐藤昌彦『佐藤昌介とその時代』（東京玄文社、1948年10月）と共に、札幌農学校以来の北海道大学の歴史の中で非常に重要な役割を果たした佐藤昌介の事蹟を知る上で、現在でも最も優れた著述である。中島は北海道大学史研究に最初に取り組んだ研究者と位置づけることができる。



図1 東北帝国大学農科
大学生（1907年頃）
（中島九郎資料No00254）



図2 特待生任命
（1908年）
（中島九郎資料No00001）



図3 卒業論文出版原稿
「日米米価論」（1912年）
（中島九郎資料No00330）



図4 講義原稿
（1915～25年頃）
（中島九郎資料No00373）



図5 講義風景
（1940年代）
（中島九郎資料No00263）

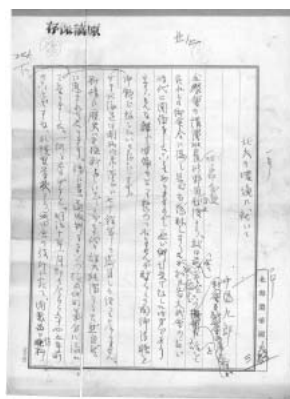


図6 文武会新入会員歓迎会講演原稿
「北大の環境に就いて」（1941年）
（中島九郎資料No00358）

〔参考文献〕

- (1) 『東北帝国大学農科大学一覧』、『北海道帝国大学一覧』
- (2) 『創基五十年記念 北海道帝国大学沿革史』（北海道帝国大学、1926年3月）
- (3) 『会員名簿』（札幌同窓会、1944年3月）
- (4) 『昭和十九年 北海道年鑑別冊 北海道樺太人名録』（北海道新聞社、1944年1月）
- (5) 札幌 RC30年史編集委員会『三十年の歩み』（札幌ロータリークラブ、1963年6月）

（こしやま すみこ／中島九郎長女）

（やまもと みほこ／北海道大学大学文書館員）

（いのうえ たかあき／北海道大学大学文書館員）

中島九郎著述一覧

【卒業論文】「日本米価論」（1910年）

「価格循環の法則と米価」（『札幌農林学会報』第11号、1911年7月、14～29頁）

「北海道に於けるケル人口中心及正中点ヲ論ズ」（『国民経済雑誌』第12巻第1号、1912年1月、109～130頁）高岡熊雄と共著

「欧州大戦と世界経済の変化」（『札幌農林学会報』第14年第61号、1923年2月、57～66頁）

国民教育奨励会編著『農学博士中島九郎氏述 現時の農村問題』（民友社、1924年4月）※1923年8月、国民教育奨励会主催夏期講習会講述（於 北海道帝国大学）

【学位論文】The Progress of the Land Problems in the United States, especially in the Light of Congressional Debates.

(*Journal of the College of Agriculture, Hokkaido Imperial University, Sapporo, Japan.* Vol. XIII. Part2, Jan.1924, pp. 67-215.)

「加州に於ける亜細亜人排斥運動」（『札幌農林学会報』第15年第67号、1924年6月、1～61頁）

「排日立法の国家的意義 産業政策と移民政策の樹立」（『文化生活』第2巻第9号、文化普及会、1924年9月、111～115頁）

「対米日支移民問題の解剖」（巖松堂書店、1924年11月）

「北海道に於ける甜菜糖業の勃興」（農業経済学会編『農業経済研究』第1巻第1号、岩波書店、1925年、93～114頁）

「農業の将来」（『改造』7巻7号、改造社、1925年7月、48～62頁）

「農村問題」（藤田政平編・発行『自治講習会講演集』1925年11月、133～198頁）

『創基五十年記念北海道帝国大学沿革史』（北海道帝国大学、1926年3月）執筆担当

「本学五十年側面史」（『北海道帝国大学新聞』第1号、1926年5月14日、2頁）

「北海道帝国大学教授農学博士中島九郎述 経済原論」※1926年9月、文部省主催成人教育講座講義

「人口問題の考察」（『経済学農政学研究資料』第20号、北海道帝国大学農学部経済学農政学教室、17～35頁）1927年12月9日執筆

『創基五十周年記念祝典報告』（北海道帝国大学、1928年10月）編集担当

「北海道帝国大学教授農学博士中島九郎述 世界大戦後の土地改革」（時習会叢書第二編、1928年12月、1～15頁）

「北海道帝国大学教授農学博士中島九郎述 貧乏の原因と其の影響」（時習会叢書第六編、1929年、1～41頁）

「北海道帝国大学教授農学博士中島九郎述 農村問題」（帝国公民教育協会）※1932年8月、文部省主催成人教育講座講義

「農業界の負債」（渡邊侃編『農政と経済 北海道帝国大学教授法学博士農学博士高岡熊雄先生在職廿五年記念論文集』北海道帝国大学農学部農業経済学教室、1932年9月、720～783頁）

「惨たり！水災凶作の北海道 水害凶作観」(『北海道帝国大学新聞』第99号、1932年10月4日、2頁)
「北海道農業の刷新」(『乳牛タイムス』1933年1月号、乳牛タイムス社、4～5頁)
「樺太の拓殖及農業に就て」(『法経会論叢』第2輯、北海道帝国大学法経会、1934年1月、1～56頁)
「欧州農業経済視察旅行復命報告書」(『教授海外視察復命報告書』第2号、北海道帝国大学、1935年)〔未確認〕
「欧州諸国の農業に就いて」(『農業と経済』2巻5号、農業と経済社、1935年、2～14頁)
Agriculture of Hokkaido. (『Dai-Nippon, Bummei Kyokwai, 1936, pp. 1-4.』)
「学徒に推すの書——諸家解答——」(2)(『北海道帝国大学新聞』第165号、1936年6月30日、3頁)
「海外発展と我国青年」(『中等教育』第99号、中学校長協会、1937年9月、1～13頁)
「我国統制経済の現在と将来」(『法経会論叢』第7輯、1939年5月、1～22頁)
「農界及教育界の大恩人佐藤先生の活眼」(『北海道農会報』第39巻第464号、1939年8月、63～68頁)
「北海道農業の特質と変遷」(『社会政策時報』230、協調会、1939年9月、11～45頁)
「北海道屯田兵制側面観」(『法経会論叢』第8輯、1940年3月、1～29頁)
「北大の環境に就いて」(一)(『北海道帝国大学新聞』第249号、1941年5月13日、4頁)
「北大の環境に就いて」(二)(『北海道帝国大学新聞』第250号、1941年5月27日、1頁)
「北大の環境に就いて」(三)(『北海道帝国大学新聞』第251号、1941年6月10日、1頁)
(座談会)「日本の将来と北方農業の使命」1～5(『樺太日日新聞』1941年9月10日～14日付)
『佐藤信淵の思想』(北海出版社、1941年12月)
「北海道の農業史について」(日本放送協会札幌中央放送局編『北海道文化史考』日本放送出版協会、1942年2月、190～218頁)
「米と小麦」(『法経会論叢』第10輯、1942年6月、1～18頁)
「一億一心の要訣」(『北海道新聞』1942年11月5日付)
「北大法文学部設置論」(『北海道新聞』1942年11月14日付)
「台湾所感 北の者が南に来ての話 桃とススキが隣り合せて」(『台北帝国大学新聞』第4号、1943年3月5日)
「丹羽七郎君の事ども」(『北海道帝国大学新聞』第284号、1943年4月13日、3頁)
「出陣学徒に与ふ 先陣の功」(『北海道帝国大学新聞』第291号、1943年10月12日、1頁)
「北大新聞創刊当時の想出」(『北海道帝国大学新聞』第300号、1944年4月18日、2頁)
「戦争と食糧」(『法経会論叢』第11輯、1945年2月、81～98頁)
「改正農地調整法批判」(『北海道帝国大学新聞』第303号、1946年1月22日、1頁)
「土地制度改革論——新農地法を中心として——」(『札幌農林学会報』第37巻第1号、1946年7月、13～22頁)
「佐藤昌介博士の学と功と徳」(『農業と経済』第14巻第1号、技術資料刊行会、1948年1月、21～29頁)
「北海道の農業史」(札幌中央放送局編『異国北海道』北方書院、1948年8月、107～142頁)
「農業恐慌を論ず」(『農地時報』2ノ4、1949年)〔未確認〕
「日く付きの経済古書」(『北海道大学新聞』第330号、1949年5月25日、2頁)
「国家の革新政策として農地の所有使用関係の展開」(『文泉論叢』第1巻第1号、札幌文科専門学院文泉学会、1949年10月、1～14頁)
「マルサス当時の人口論」(『望畔』第2号、札幌文科専門学院夜間部、1～12頁)1949年12月19日執筆
「図書館随想」(『Literature』第2巻第3号、札幌短期大学文泉学会、1950年7月、58～66頁)
「競争の理論と実際」(『Prometheus』第2号、札幌短期大学学友会、6～12頁)1950年1月25日執筆
「米国歴史中に占めるフロンチエーの地位を論じわが北海道に及ぶ」(『札大商経論叢』第2巻第2号、札幌短期大学文泉学会、1950年7月、3～17頁)
「農業経営の特質」(『経営論集』第2巻第2号、札幌短期大学経営学研究会、1952年11月、2～12頁)

「札幌市発展の特異的経過——シカゴとの比較において——」（『札幌大商経論叢』第3号、1953年8月、21～52頁）
「日本農業を考える」（『北海道農家の友』第6巻第1号、北海道農業改良普及協会、1954年1月、27～31頁）
「産業革命以来世界に於ける社会事態の変動」（『Prometheus』第5号、1954年3月、6～20頁）
「ブルーノ・ヒルデブランド論」（『札幌大商経論叢』第4号、1954年10月、1～56頁）
「前世紀末年におけるドイツ経済学者の論説——当時の一大ドイツ経済雑誌上に現れたる——」（『経営論集』第4巻第1号、1955年3月、46～63頁）
「私と北大 水芭蕉のありし頃」（『北海道大学新聞』第406号、1955年9月7日、2頁）
「北大の父 佐藤昌介先生——クラークの子——」（『北大季刊』第9号、北大季刊刊行会、1955年12月、2～11頁）
「鉄道の発生発達及び将来」（『札幌短期大学論集』第1号、札幌短期大学文泉学会、1956年3月、1～42頁）
「北大をきずいた人々(1) 初代総長佐藤昌介」（『北海道大学新聞』第414号、1956年5月15日、4頁）
「北大の父 佐藤昌介先生」（その二）（『北大季刊』第10号、1956年6月、2～17頁）
『佐藤昌介』（川崎書店新社、1956年9月）
「北大五十周年記念式の頃」（『北海道大学新聞』第417号、1956年9月15日、7頁）
「北大の父 佐藤昌介先生」（その三、完）（『北大季刊』第11号、1956年12月、2～20頁）
「R.T. イーリ著『所有権および契約論』便概」（1）（『札幌短期大学論集』第4号、1958年5月、1～30頁）
『札幌九十年 物的篇・人物篇』（デーリイタイムス社、1958年7月）
「加州における日本人」（『北海道大学農経会論叢』第15集、1959年3月、143～164頁）